

(様式第10)

神大医支第

60号

令和 5年

10月

2日

厚生労働大臣 殿

開設者名

国立大学法人神戸大学長
藤澤正人

神戸大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
氏名	国立大学法人神戸大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

神戸大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒650-0017 神戸市中央区楠町7丁目5-2
電話(078) 382-5111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
<input checked="" type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
「神経内科」の診療内容は脳神経内科、「内分泌内科」の診療内容は糖尿病内分泌内科、「代謝内科」及び「リウマチ科」の診療内容は「内科」、「アレルギー疾患内科またはアレルギー科」の診療内容は「内科」、「呼吸器内科」、「皮膚科」等で提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						無	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
「消化器外科」の診療内容は食道・胃腸外科、「乳腺外科」及び「内分泌外科」の診療内容は乳腺・内分泌外科で提供している							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						無	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科		3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腫瘍・血液内科	2	肝臓・胆のう・膵臓外科	3	耳鼻いんこう頭頸部外科	4	美容外科	5	形成外科
6	放射線腫瘍科	7	病理診断科	8	脳神経内科	9	リハビリテーション科	10	糖尿病内分泌内科
11	食道・胃腸外科	12	乳腺・内分泌外科	13	歯科口腔外科	14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
46	0	0	0	888	934	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	654	299	797.1
歯科医師	15	22	39.4
薬剤師	75	2	76.1
保健師	0	0	0
助産師	43	0	43
看護師	914	14	921.2
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	5	0	5
管理栄養士	18	0	18

職種	員数
看護補助者	32
理学療法士	17
作業療法士	7
視能訓練士	11
義肢装具士	0
臨床工学士	38
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	57

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	78
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	14	
その他の技術員	50	
事務職員	274	
その他の職員	33	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	94	眼科専門医	13
外科専門医	72	耳鼻咽喉科専門医	15
精神科専門医	12	放射線科専門医	28
小児科専門医	24	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	33
泌尿器科専門医	26	麻酔科専門医	22
産婦人科専門医	12	救急科専門医	11
		合計	382

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (病院長 眞庭 謙昌) 任命年月日 令和 3 年 2 月 1 日

医療安全管理委員会委員(令和2年9月1日～)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	628.5 人	10.3 人	638.8 人
1日当たり平均外来患者数	1740.3 人	93.4 人	1833.7 人
1日当たり平均調剤数	1363.6		剤
必要医師数	166		人
必要歯科医師数	7		人
必要薬剤師数	22		人
必要(准)看護師数	382		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	663.6 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	36 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	35.3 m ²	病床数 (クラス100)	5 床	
			722.35 m ²	病床数 (クラス100以外)	63 床	
	[移動式の場合]	台数	4 台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	36 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	438 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動臨床化学分析装置		
細菌検査室	88 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物分類同定分析装置 同定・薬剤感受性パネル自動測定装置		
病理検査室	278 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	クリオスタット、ウルトラミクローム、染色装置		
病理解剖室	67 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、オートクレーブ、写真撮影機		
研究室	429 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講義室	1217 m ²	鉄筋コンクリート	室数	6 室	収容定員	1082 人
図書室	2145 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	約15万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	86	%	逆紹介率	75.5	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		18892		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		17278		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		953		人
	D: 初診の患者の数		22886		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
寺尾 秀一	加古川中央市民病院 内科 科特任部長	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	無	1
丸山 英二	京都府立医科大学 大学院医学研究科 客員教授(非常勤)		医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	無	1
武田 高	関西住宅品質保証株式会社 監査役(非常勤)		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 膵切除をロボット支援下腹腔鏡下に行う。低侵襲手術である。腹腔鏡下手術に比べて、手ブレのないこと、より精緻な操作が可能なこと、手術の安全性、低侵襲性、腫瘍学的に過不足ない切除が可能と考えられる。腹腔鏡下手術では胆管や膵の複雑な再建が困難であるが、ロボット支援下では多関節であることから縫合手技の自由度が高く複雑な再建が可能となる。術後合併症、術後入院期間は開腹手術に比べて低減・短縮する、腹腔鏡下手術に比べて同等または低減・短縮すると考えられる。腫瘍学的な治療成績は、従来の開腹手術および腹腔鏡下手術と遜色はないと考えられる。			
医療技術名	腹腔鏡下スパーサー留置術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 スパーサー手術は、腹部悪性腫瘍で消化管と腫瘍が近接しているために、根治的照射が不可能な症例に対して、手術によって腫瘍と消化管の間にスパーサーを挿入することで、術後の根治的粒子線治療を可能にする方法である。腹腔鏡下にスパーサー留置術を施行する最大のメリットは低侵襲性および若年者の将来的なリスクの最小化を目指すことである。従来の開腹手術が保険適応内で施行可能であるのに対して腹腔鏡手術では保険適応外での施行となることも含め、対象となる症例は非常に限定的であると考えている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下副腎摘除術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 ロボット支援副腎摘出術は腹腔鏡下副腎摘出術と比較し、手術時間は短く、出血量は少ないと報告されている。また、大きな腫瘍や肥満症例への有用性が報告されている。低侵襲手術である。腹腔鏡下手術に比べて、手ブレのないこと、より精緻な操作が可能なこと、より繊細かつ安全な副腎周囲の剥離および摘出術が可能である。術後合併症、術後入院期間は開腹手術に比べて低減・短縮する、腹腔鏡下手術に比べて同等または低減・短縮すると考えられる。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	3
取扱い患者数の合計(人)	2

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	13	56	ベーチェット病	125
2	筋萎縮性側索硬化症	8	57	特発性拡張型心筋症	110
3	脊髄性筋萎縮症	46	58	肥大型心筋症	127
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	18
6	パーキンソン病	302	61	自己免疫性溶血性貧血	15
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	10
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	54
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	3
10	シャルコー・マリー・トウス病	19	65	原発性免疫不全症候群	9
11	重症筋無力症	180	66	IgA 腎症	0
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	42
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	182	68	黄色靱帯骨化症	3
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	40	69	後縦靱帯骨化症	3
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	1
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	102
17	多系統萎縮症	15	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	71	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	10	74	下垂体性PRL分泌亢進症	3
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	23
21	ミトコンドリア病	35	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	37	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	1
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	3
26	HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	19	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	157
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	17
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	32
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	107
34	神経線維腫症	94	89	リンパ管筋腫症	8
35	天疱瘡	5	90	網膜色素変性症	3
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	11	92	特発性門脈圧亢進症	5
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	6	93	原発性胆汁性胆管炎	89
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	30
40	高安動脈炎	15	95	自己免疫性肝炎	90
41	巨細胞性動脈炎	13	96	クローン病	106
42	結節性多発動脈炎	15	97	潰瘍性大腸炎	246
43	顕微鏡的多発血管炎	38	98	好酸球性消化管疾患	22
44	多発血管炎性肉芽腫症	35	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	35	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	6	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	5	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	58	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	359	104	コストロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	80	105	チャージ症候群	9
51	全身性強皮症	45	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	46	107	若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	232	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	27	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	0

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	41	161	家族性良性慢性天疱瘡	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	72
113	筋ジストロフィー	259	163	特発性後天性全身性無汗症	22
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	16	164	眼皮膚白皮症	2
115	遺伝性周期性四肢麻痺	3	165	肥厚性皮膚骨膜炎	2
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	8
117	脊髄空洞症	22	167	マルファン症候群	27
118	脊髄髄膜瘤	2	168	エーラス・ダンロス症候群	5
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	4
120	遺伝性ジストニア	2	170	オクシタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	8
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	1
127	前頭側頭葉変性症	8	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	2	181	クルーゾン症候群	1
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	1
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	1	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	1	192	コケイン症候群	1
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	2	193	プラダー・ウィリ症候群	7
144	レノックス・ガストー症候群	2	194	ソトス症候群	1
145	ウエスト症候群	1	195	ヌーナン症候群	3
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	1
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	1
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	64	208	修正大血管転位症	11
159	色素性乾皮症	53	209	完全大血管転位症	4
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	1

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	55	263	脳髄黄色腫症	1
216	両大血管右室起始症	4	264	無 β リポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	2	265	脂肪萎縮症	2
218	アルポート症候群	40	266	家族性地中海熱	18
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	21	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候	3
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	15
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	6
227	オスラー病	32	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	6
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	4
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	15	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	7	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	7	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	6	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	8	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
241	高チロシン血症1型	1	289	クローンカイト・カナダ症候群	5
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	1	293	総排泄腔遺残	3
246	メチルマロン酸血症	8	294	先天性横隔膜ヘルニア	2
247	イソ吉草酸血症	1	295	乳幼児肝巨大血管腫	1
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	8
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	3	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	32
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	4
254	ポルフィリン症	5	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	4	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	9	305	遅発性内リンパ水腫	4
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	41

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
308	進行性白質脳症	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	23	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310	先天異常症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	1
312	先天性僧帽弁狭窄症	2	326	大理石骨病	1
313	先天性肺静脈狭窄症	1	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	328	前眼部形成異常	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1 B関連腎症	0	329	無虹彩症	1
316	カルニチン回路異常症	3	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	2
317	三頭酵素欠損症	1	331	特発性多中心性キャッスルマン病	17
318	シトリン欠損症	7	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	4
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール (GPI)欠損症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
			335	ネフロン癆	2
			336	家族性低 β リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
			337	ホモシスチン尿症	3
			338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	188
合計患者数(人)	4,850

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	医療安全対策加算1
歯科外来診療環境体制加算2	感染対策向上加算1
歯科診療特別対応連携加算	患者サポート体制充実加算
特定機能病院入院基本料	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
救急医療管理加算	ハイリスク妊娠管理加算
超急性期脳卒中加算	ハイリスク分娩管理加算
診療録管理体制加算1	呼吸ケアチーム加算
医師事務作業補助体制加算1	後発医薬品使用体制加算1
急性期看護補助体制加算	病棟薬剤業務実施加算1
看護職員夜間配置加算	病棟薬剤業務実施加算2
看護補助加算	データ提出加算
療養環境加算	入退院支援加算
重症者等療養環境特別加算	精神疾患診療体制加算
無菌治療室管理加算1	精神科急性期医師配置加算
無菌治療室管理加算2	排尿自立支援加算
放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	地域医療体制確保加算
放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	救命救急入院料1
緩和ケア診療加算	特定集中治療室管理料2
精神科応急入院施設管理加算	ハイケアユニット入院医療管理料1
精神病棟入院時医学管理加算	総合周産期特定集中治療室管理料
精神科身体合併症管理加算	新生児治療回復室入院医療管理料
精神科リエゾンチーム加算	小児入院医療管理料2
摂食障害入院医療管理加算	看護職員処遇改善評価料60
栄養サポートチーム加算	入院時食事療養/生活療養(I)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	ハイリスク妊産婦連携指導料1
外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	ハイリスク妊産婦連携指導料2
外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	肝炎インターフェロン治療計画料
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	こころの連携指導料(Ⅱ)
糖尿病合併症管理料	薬剤管理指導料
がん性疼痛緩和指導管理料	医療機器安全管理料1
がん患者指導管理料イ	医療機器安全管理料2
がん患者指導管理料ロ	医療機器安全管理料(歯科)
がん患者指導管理料ハ	歯科治療時医療管理料
がん患者指導管理料ニ	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
外来緩和ケア管理料	在宅患者訪問看護・指導料の注16(同一建物居住者訪問看護・指導料の注6の規定により準用する場合を含む。)に規定する専門管理加算
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
糖尿病透析予防指導管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
小児運動器疾患指導管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	遺伝学的検査
婦人科特定疾患治療管理料	染色体検査の注2に規定する基準
腎代替療法指導管理料	骨髄微小残存病変量測定
下肢創傷処置管理料	BRCA1/2遺伝子検査
院内トリアージ実施料	がんゲノムプロファイリング検査
外来放射線照射診療料	先天性代謝異常症検査
外来腫瘍化学療法診療料1	抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
連携充実加算	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
ニコチン依存症管理料	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
がん治療連携計画策定料	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
外来排尿自立指導料	検体検査管理加算(Ⅳ)

国際標準検査管理加算	冠動脈CT撮影加算
遺伝カウンセリング加算	血流予備量比コンピューター断層撮影
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	心臓MRI撮影加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	乳房MRI撮影加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	頭部MRI撮影加算
胎児心エコー法	全身MRI撮影加算
ヘッドアップティルト試験	肝エラストグラフィ加算
人工臓器検査、人工臓器療法	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
長期継続頭蓋内脳波検査	外来化学療法加算1
長期脳波ビデオ同時記録検査1	無菌製剤処理料
単線維筋電図	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
神経学的検査	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
補聴器適合検査	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
全視野精密網膜電図	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
ロービジョン検査判断料	摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
コンタクトレンズ検査料1	がん患者リハビリテーション料
小児食物アレルギー負荷検査	歯科口腔リハビリテーション料2
内服・点滴誘発試験	精神科作業療法
経気管支凍結生検法	精神科ショート・ケア「小規模なもの」
口腔細菌定量検査	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
精密触覚機能検査	医療保護入院等診療料
画像診断管理加算3	医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
ポジトロン断層撮影	医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影	静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
CT撮影及びMRI撮影	エタノールの局所注入(甲状腺)
エタノールの局所注入(副甲状腺)	緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
人工腎臓	緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
導入期加算3及び腎代替療法実績加算	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	網膜再建術
難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	経外耳道の内視鏡下鼓室形成術

移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	人工中耳植込術
磁気による膀胱等刺激法	植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
手術用顕微鏡加算	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
口腔粘膜処置	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
歯科技工加算1及び2	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
センチネルリンパ節加算	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	顎関節人工関節全置換術(歯科)
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
椎間板内酵素注入療法	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
腫瘍脊椎骨全摘術	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
角結膜悪性腫瘍切除術	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
角膜移植術(内皮移植加算)	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
羊膜移植術	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
内視鏡下筋層切開術	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等	腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
胸腔鏡下弁形成術	腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
胸腔鏡下弁置換術	腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
経皮的僧帽弁クリップ術	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)

不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテルの手術によるもの)	体外衝撃波胆石破碎術
経皮的の中隔心筋焼灼術	腹腔鏡下肝切除術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	生体部分肝移植術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	同種死体肝移植術
両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	体外衝撃波膵石破碎術
両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
補助人工心臓	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
植込型補助人工心臓(非拍動流型)	内視鏡的小腸ポリープ切除術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	貯血式自己血輸血管理体制加算
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	コーディネート体制充実加算
腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	自己生体組織接着剤作成術
同種死体腎移植術	自己クリオプレシピレート作製術(用手法)
生体腎移植術	同種クリオプレシピレート作製術
膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	歯周組織再生誘導手術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
人工尿道括約筋植込・置換術	歯根端切除手術の注3
精巣内精子採取術	口腔粘膜血管腫凝固術

腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	レーザー機器加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	麻酔管理料(Ⅰ)
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	麻酔管理料(Ⅱ)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	周術期薬剤管理加算
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	放射線治療専任加算
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	外来放射線治療加算
腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	高エネルギー放射線治療
胎児胸腔・羊水腔シャント術	一回線量増加加算
胎児輸血術及び臍帯穿刺	強度変調放射線治療(IMRT)
体外式膜型人工肺管理料	画像誘導放射線治療(IGRT)
医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1	体外照射呼吸性移動対策加算
医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1	定位放射線治療
医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	画像誘導密封小線源治療加算
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	保険医療機関間の連携による病理診断
輸血管管理料Ⅰ	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診	術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)
デジタル病理画像による病理診断	周術期デュルバルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)
病理診断管理加算2	ベバシズマブ局所注入療法 重症未熟児網膜症
悪性腫瘍病理組織標本加算	セボフルラン吸入療法 急性呼吸窮迫症候群(従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)
クラウン・ブリッジ維持管理料	
歯科矯正診断料	
顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)	
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	
陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
神経皮膚症候群におけるアンメットニーズを満たす多診療科連携診療体制の確立	錦織 千佳子	皮膚科学	5,850,000	補委 国立保健医療科学院
循環器病対策推進基本計画に基づいた、都道府県の有用な目標指標の設定のための研究	平田 健一	循環器内科学	3,339,000	補委 厚生労働省
循環器病対策推進基本計画に基づいた、都道府県の有用な目標指標の設定のための研究	平田 健一	循環器内科学	1,000,000	補委 厚生労働省
国民のニーズに応える薬剤師の専門性のあり方に関する調査研究	矢野 育子	薬剤部	3,981,000	補委 厚生労働省
国民のニーズに応える薬剤師の専門性のあり方に関する調査研究	矢野 育子	薬剤部	3,330,000	補委 厚生労働省
新薬創出を加速する症例データベースの構築・拡充/創薬ターゲット推定アルゴリズムの開発	永野 達也	呼吸器内科学	11,596,000	補委 厚生労働省
将来の医療需要への効果的効率的な対応に向けた、DPCデータ等を用いた回復期・地域密着型医療の確保のための研究	小林 大介	医療システム学	6,000,000	補委 厚生労働省
HIV感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化のための研究	出口 雅士	地域医療ネットワーク学	700,000	補委 厚生労働省
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	小川 渉	糖尿病・内分泌・総合内科学	900,000	補委 国立保健医療科学院
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	児玉 裕三	消化器内科学	500,000	補委 国立保健医療科学院
Value-based medicineの推進に向けた循環器病の疾患管理システムの構築に関する研究	篠原 正和	分子疫学分野	200,000	補委 厚生労働省
Value-based medicineの推進に向けた循環器病の疾患管理システムの構築に関する研究	杜 隆嗣	立証検査医学	200,000	補委 厚生労働省
医師の労働時間短縮のための手法に関する検討	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	250,000	補委 厚生労働省
小児急性脳症の早期診断・最適治療・ガイドライン策定に向けた体制整備	永瀬 裕朗	小児科学	600,000	補委 国立保健医療科学院
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療および移行期医療支援に関する研究	上原 奈津美	耳鼻咽喉・頭頸部外科	200,000	補委 国立保健医療科学院
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療および移行期医療支援に関する研究	中西 裕子	眼科学	200,000	補委 国立保健医療科学院
指定難病の普及・啓発に向けた包括的研究	中村 誠	眼科学	1,000,000	補委 厚生労働省
指定難病の普及・啓発に向けた包括的研究	錦織 千佳子	皮膚科学	1,000,000	補委 厚生労働省
難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	野村 正	形成外科	300,000	補委 国立保健医療科学院
難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	長濱 通子	皮膚科学	100,000	補委 国立保健医療科学院
筋ジストロフィーの標準的医療普及のための調査研究	栗野 宏之	小児科学	400,000	補委 国立保健医療科学院
スモンに関する調査研究	松本 理器	脳神経内科学	300,000	補委 厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究	西 慎一	腎臓内科学	200,000	補委 国立保健医療科学院
小児腎領域の希少・難治性疾患群の診療・研究体制の発展	野津 寛大	小児科学	350,000	補委 国立保健医療科学院

小計 24件

小児腎領域の希少・難治性疾患群の診療・研究体制の発展	森貞 直哉	小児科学	400,000	補委	国立保健医療科学院
呼吸器系先天異常疾患の診療体制構築とデータベースおよび診療ガイドラインに基づいた医療水準向上に関する研究	前田 貢作	小児外科学	300,000	補委	国立保健医療科学院
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	福岡 秀規	糖尿病・内分泌内科	200,000	補委	国立保健医療科学院
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業	溝渕 知司	麻酔科学	500,000	補委	厚生労働省
データ駆動で地域の実情に応じて医療提供体制構築を推進するための政策研究	廣瀬 昌博	地域医療教育学	250,000	補委	厚生労働省
自然免疫系細胞の制御による新規がん免疫療法の研究開発	的崎 尚	生体シグナル制御学	29,900,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
癌抑制ドライバー経路を標的とする抗癌剤開発	鈴木 聡	分子細胞生物学	13,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
医療機器開発における“日本型エコシステム”推進を目指した拠点整備事業	眞庭 謙昌	病院長	23,675,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
左心負荷を伴わず血管合併症も軽減し得る低侵襲ECMOの研究開発	小西 明英	臨床研究推進センター	22,100,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高頻拍ペーシングなしでの大動脈弁頻回拡張を可能にする「心電図同期型」経皮的動脈弁拡張システムの創出	小西 明英	臨床研究推進センター	3,560,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
左心負荷の軽減により早期離脱を可能とする新規順行性・低侵襲ECMOシステムの創出	小西 明英	臨床研究推進センター	1,340,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ゲノム医療実現推進のためのバイオバンク活用促進に向けたバイオバンク・ネットワーク構築と運用支援の研究開発	松岡 広	バイオリソースセンター	3,900,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん超早期・早期病変に対する細胞生物学的治療コンセプトの創出	南 康博	細胞生理学	26,999,700	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
患者生体試料リソースプラットフォームの構築と運用	児玉 裕三	消化器内科学	33,000,500	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
オミックス解析基盤の構築・多階層統合解析プラットフォーム・データベースの構築と運用	篠原 正和	疫学	13,999,700	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
患者生体試料リソースプラットフォームの構築と運用	今井 俊夫	消化器内科学	4,999,800	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
免疫系に着目した血管性認知症および混合型認知症における臓器間ネットワークの解明	松本 理器	脳神経内科学	36,400,000	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
免疫系に着目した血管性認知症および混合型認知症における臓器間ネットワークの解明	水谷 清人	病態シグナル学	37,700,000	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
臓器間ネットワークの変容を早期に観測可能な新規イメージング技術の開発とその応用による臓器間ネットワークの解明	仁田 亮	生体構造解剖学	7,670,000	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
動物を対象とした生体信号・感情状態計測	内匠 透	生理学	3,640,000	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
こころの可視化と操作を可能にする脳科学的基盤開発 ①こころの可視化と操作を可能にする脳科学的基盤開発 ②マルチモーダルVRシステム構築と脳機能ネットワークの可視化	内匠 透	生理学	40,300,000	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
「世界モデルとなる自立成長型人材・技術を育む総合健康産業都市拠点」に関する神戸大学による研究開発及びプロジェクト推進	南 康博	研究科長	30,500,600	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
説明できるAIの基盤技術開発／モジュール型モデルによる深層学習のホワイトボックス化	村上 卓道	放射線診断学	3,112,000	補委	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構
ストレス関連疾患を担う機能性脂質の探索と機能解析に基づく臨床応用のための技術基盤の創出	古屋敷 智之	薬理学	74,908,600	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
疾患特異的iPS細胞を用いた先天性中枢性低換気症候群における低CO2感受性の分子機構	藤岡 一路	小児科学	21,500,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
廃用性筋萎縮の発症・進展メカニズムの検証	小川 渉	糖尿病・内分泌内科学	3,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計 26件

高齢者難治性骨髄疾患を担う神経ネットワークの探索と機能解析に基づく臨床応用のための技術基盤の創出	片山 義雄	血液内科		61,533,550	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
若年期体細胞モザイクの発生要因・拡大原理の解明とその制御による新規治療基盤の創出	久保 亮治	皮膚科学		18,091,889	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ストレスレジリエンスの個体差を生み出す分子・神経回路基盤の解明	篠原 亮太	薬理学		17,098,900	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
革新的化合物探索・合成手法による新規抗菌アジュバントの創出	今崎 剛	生体構造解剖学		12,480,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
老化研究支援・推進に関する研究開発	南 康博	細胞生理学		34,683,350	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
神経細胞とグリア細胞の老化制御機構の解明とそのアルツハイマー型認知症の診断・治療法の開発への応用	水谷 清人	細胞生理学分野病態シグナル学部門		40,950,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
核内膜プロテオスタシスの制御	有井 潤	臨床ウイルス学		3,900,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
企業ノウハウとアカデミア支援経験に基づく創薬リード創製支援/構造展開支援プロジェクトマネジメント	樽林 陽一	AI・デジタルヘルス科学		10,520,400	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
FCMD及び類縁疾患のiPSCs由来三次元培養法による疾患モデルを駆使した病態評価と低分子治療法開発	青井 三千代	再生医療臨床応用実現化人材育成センター		5,200,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
レジストリ連携による神経変性疾患iPS細胞コホートの構築と整備/患者リクルート・付随情報整備	錦織 千佳子	皮膚科学		1,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
心筋メカノバイロジ機構の解明による心不全治療法の開発	仁田 亮	生体構造解剖学		5,500,001	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
神経-生体システム連関のレジリエンス機能の統合的解明/神経-生体システム連関のレジリエンス機能の統合的解明	南 康博	細胞生理学		9,100,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腸内マイクロバイオーム制御による次世代創薬技術の開発/課題1(2):リパーstransレーショナル創薬に向けた包括的マイクロバイオーム制御基盤技術開発-マイクロバイオーム創薬エコシステム構築に向けて-/創薬シーズ評価基盤技術(研究統括)	南 博信	腫瘍・血液内科学		9,100,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腸内マイクロバイオーム制御による次世代創薬技術の開発/課題1(2):リパーstransレーショナル創薬に向けた包括的マイクロバイオーム制御基盤技術開発-マイクロバイオーム創薬エコシステム構築に向けて-/創薬シーズ評価基盤技術(研究統括)	児玉 裕三	消化器内科学		11,700,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腸内細菌と老化細胞のクロストークが引き起こす加齢に伴う恒常性破綻機構の解明とその制御	遠藤 光晴	細胞生理学		15,600,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
接着の偏在によるモザイク形成メカニズム	富樫 英	分子細胞生物学		3,770,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
腸-脳機能コネクティクスによる腸内感覚の機能解明と操作	榎本 秀樹	神経分化・再生		29,900,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
微小管を軸とした細胞極性形成機構の解明	今崎 剛	生体構造解剖学		11,440,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
医工融合による低侵襲・高解像な感音難聴の精密診断の実現	藤田 岳	耳鼻咽喉・頭頸部外科		9,100,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
サンバーン増強型の色素性乾皮症を対象とした既存薬による新規治療の効果と安全性を評価する医師主導治験	錦織 千佳子	皮膚科学分野		75,790,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
慢性ストレス・老化による脳機能変容の炎症性機序の解明	古屋敷 智之	薬理学分野		40,170,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
吸収性スパーサーを用いた体内空間可変技術の定位放射線治療への展開	佐々木 良平	放射線腫瘍科		23,100,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
レポーターHBVを駆使したB型肝炎ウイルス増殖機構の解析と創薬ターゲットの探索・同定に資する研究	勝二 郁夫	感染制御学分野		98,150,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
運動効果模倣薬の開発を目指した運動による生活習慣病改善機構の解析	小川 渉	糖尿病・内分泌・総合内科学分野		9,750,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん患者における患者報告アウトカム尺度開発に関する研究	清田 尚臣	腫瘍センター		3,380,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計 25件

視神経脊髄炎の個別化医療を目指した免疫寛容システムの解明	千原 典夫	脳神経内科	10,400,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
免疫細胞による精神病理の操作を目指して	内匠 透	生理学分野	39,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
自己免疫網膜症を対象とした多施設共同研究による診断・治療エビデンスの創出	楠原 仙太郎	眼科学分野	11,466,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Alport症候群に対するエクソソスキッピング療法の開発	野津 寛大	小児科学分野	105,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
単一細胞解析によるヘルペスウイルス持続感染の分子基盤の解明	有井 潤	臨床ウイルス学分野	15,600,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
画像認識AIによる細菌感染症の菌種分類精度向上と抗菌薬適正使用に関する臨床研究	大路 剛	感染治療学分野	9,343,878	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
B型肝炎ウイルス持続感染実験モデルを用いた病態解明及び新しい治療法の開発に資する研究	勝二 郁夫	感染制御学分野	1,950,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
遺伝子導入長期造血幹細胞を用いた小児難治性希少疾患の治療	山本 暢之	総合周産期母子医療センター	421,600,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ゲノム不安定性疾患群を中心とした希少難治性疾患の次世代マルチオミクス解析拠点構築	錦織 千佳子	皮膚科学分野	2,600,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
未診断疾患イニシアチブ(Initiative on Rare and Undiagnosed Disease(IRUD)):希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	野津 寛大	小児科学分野	7,020,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第III相試験	掛地 吉弘	食道胃腸外科学分野	130,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
倍数性変動と細胞老化エスケープを標的とした、肝発癌・薬剤耐性を阻害する新規治療戦略の探索	上田 佳秀	地域医療ネットワーク学(消化器内科学)	1,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
原子レベルで解明するトキソプラズマ寄生胞膜破壊と病原性因子によるその破綻	仁田 亮	生体構造解剖学	1,690,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
患者レジストリJapan PH Registryを活用した肺動脈性肺高血圧症に対する抗IL-6受容体抗体適応拡大のための医師主導治験	谷口 悠	循環器内科	650,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
患者レジストリJapan PH Registryを活用した肺動脈性肺高血圧症のアンメットメディカルニーズに対するエビデンス創出研究	谷口 悠	循環器内科	520,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
性差を加味した冠動脈疾患AI診断システムに関する研究開発	河野 淳	放射線診断学分野	130,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脈管異常の皮膚病変に対するシロリムスゲルの多施設共同、プラセボ対照、二重盲検、無作為化、並行群間比較試験	久保 亮治	皮膚科学分野	2,470,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行頭頸部がんに対する術後補助療法の標準治療確立のための多施設共同研究	清田 尚臣	腫瘍センター	1,144,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脊髄性筋萎縮症における治療有効性モニタリングのためのバイオマーカーの開発	栗野 宏之	小児科学分野	195,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新生児マススクリーニング対象拡充のための疾患選定基準の確立	篠原 正和	分子疫学分野	390,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
遺伝子関連情報を基軸にした効率的免疫抑制管理による革新的長期管理ロジック開発	蔵満 薫	肝胆膵外科	260,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
関節リウマチ患者のサルコペニア改善と分子標的薬の寛解休薬をめざした運動療法の治療ストラテジー開発	山田 啓貴	膠原病リウマチ内科	390,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
抗インテグリン $\alpha V \beta 6$ 自己抗体測定による潰瘍性大腸炎の診断・病勢評価のエビデンス創出研究	児玉 裕三	消化器内科学分野	1,170,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
臨床開発を目指したベッカー型筋ジストロフィーの自然歴調査研究	栗野 宏之	小児科学分野	260,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
膠芽腫の標準治療後病勢を診断する血液バイオマーカーの実用化	篠山 隆司	脳神経外科学	390,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
慢性B型肝炎ウイルス感染根治に向けたHBsセロコンバージョン促進方法の研究開発	上田 佳秀	地域医療ネットワーク学(消化器内科学)	1,040,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計 26件

京都大学大学院における臨床統計家育成推進のための大学院・卒後一貫したプログラム構築に関する研究開発	小西 明英	臨床研究推進センター	1,999,595	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性心血管疾患におけるマルチオミックス解析による病態解明と精密医療	仁田 亮	生体構造解剖学	1,950,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
薬事承認申請をめざした福山型筋ジストロフィーにおけるアンチセンス核酸NS-035の第1/2相試験(ステップ2)	小林 千浩	分子脳科学分野	18,720,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
症候性先天性サイトメガロウイルス感染症を対象としたバルガンシクロビル治療の開発研究	藤岡 一路	小児科学分野	4,550,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脂肪肝炎を背景とする代謝関連肝がん発生の病態解明に関する研究	勝二 郁夫	感染制御学分野	3,900,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
薬剤性パーキンソニズムのファーマコゲノクスに関する医療実装開発	大塚 郁夫	精神科神経科	1,950,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
食道癌術後患者を対象とした外来がんリハビリテーションプログラムの開発に関する研究	押切 太郎	食道胃腸外科学分野	780,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
自殺ポリジェニックリスクスコアを用いた精神疾患患者の自殺リスク予測に関する研究開発	大塚 郁夫	精神科神経科	650,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
母子感染のリスク評価と先天性感染の新たな診断・予防法の開発研究	山田 秀人	産科婦人科学分野	1,040,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
頭頸部癌化学放射線療法における予防領域照射の線量低減に関するランダム化比較試験に関する研究	清田 尚臣	腫瘍センター	1,040,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
医療費適正化に資する前立腺癌病巣標的化凍結治療:医師主導治験	高橋 哲	放射線医学分野	552,500	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
MAGE-A4抗原を発現する切除不能進行・再発腫瘍に対するCAR-T細胞療法の医師主導第I相治験	清田 尚臣	腫瘍センター	1,040,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
静脈奇形に対するモノエタノールアミンオレイン酸塩を用いた硬化療法の有効性および安全性を評価する医師主導治験	野村 正	形成外科	4,806,100	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
網膜色素変性を対象とした経皮膚電気刺激の有効性及び安全性に関する検証的試験	中村 誠	眼科学分野	1,883,960	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
レジストリを活用した慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するエドキサパンの適応拡大のための第III相医師主導治験	谷口 悠	循環器内科	3,120,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
先天性有機酸血症の新治療薬による医師主導治験研究	坊 亮輔	小児科	2,161,900	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
臨床研究中核病院以外のAROにおける多職種の見点による高品質の臨床研究計画作成支援体制の構築	真田 昌爾	臨床研究推進センター	585,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
2型糖尿病の発症予防を目指すヘルスケアサービスの適正評価確立のための研究	小川 渉	糖尿病・内分泌内科学	1,300,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新規の核酸合成とデリバリー技術を用いた核酸創薬研究	今井 俊夫	消化器内科学分野新規治療探索医学部門	24,583,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
標準化電子ワークシートを核とした分散型臨床試験のシステム・運用両面からの構築	真田 昌爾	臨床研究推進センター	35,574,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
福山型先天性筋ジストロフィー患者における内服ステロイド薬の第II相治験	栗野 宏之	小児科学分野	260,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
インドネシアにおける新興・再興感染症の国際共同研究拠点形成に関する研究	森 康子	感染症センター	109,071,300	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん遺伝子産物RasのGTP加水分解に伴うアロステリック構造変化の解明	槇野 義輝	メディカルトランスフォーメーション研究センター	420,000	補委	日本学術振興会
樹状細胞ならびに成熟T細胞の生存制御における分子基盤の解明	齊藤 泰之	生化学・シグナル統合学分野	300,000	補委	日本学術振興会
創傷治癒能力とミトコンドリア機能に着目した新規創傷治療法の開発	齊藤 泉	口腔外科学分野	240,000	補委	日本学術振興会
口腔癌における金属ナノ粒子と分子標的薬併用治療の有効性に関する研究	笥 康正	口腔外科学分野	180,000	補委	日本学術振興会
敗血症性脳症とそれに伴う精神疾患の発症機序解明と制御性T細胞に着目した治療戦略	齋藤 雅史	災害・救急医学分野	600,000	補委	日本学術振興会

小計 27件

肺癌オルガノイドの樹立効率向上と臨床での実用化	眞庭 謙昌	呼吸器外科学分野	1,290,000	補委	日本学術振興会
アデニン2a受容体を標的とした新規直腸癌術前治療法の開発	澤田 隆一郎	食道胃腸外科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
2型糖尿病発症における膵β細胞でのmTORC1活性調節機構の解明	浅原 俊一郎	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
涙液を用いた新しい乳癌早期診断法の確立	國久 智成	乳腺内分泌外科学分野	450,000	補委	日本学術振興会
アトピー性皮膚炎の治療過程における好塩基球の動態の解明	鷺尾 健	皮膚科学分野	210,000	補委	日本学術振興会
高齢者の担癌状態におけるインターロイキン15による免疫賦活機序の解明	鈴木 知志	食道胃腸外科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
KLF15発現制御による変形性関節症に対する治療への挑戦	林 申也	整形外科科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
肝癌増殖に関わるアミノ酸同定とアミノ酸トランスポーターを介した肝癌抑制効果の検討	林 宏樹	消化器内科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
がん幹細胞と老化細胞を標的とした分子標的治療薬耐性の克服	立原 素子	呼吸器内科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
食道癌における腫瘍関連マクロファージによる化学療法耐性機構の解明と克服	裏川 直樹	食道胃腸外科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
mTORC1制御による椎間板変性遺伝子・薬物治療法の開発	由留部 崇	整形外科科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
骨吸収抑制薬関連顎骨壊死におけるバスソール処理を用いた新規骨再建法の開発	有本 智美	口腔外科学分野	930,000	補委	日本学術振興会
ヘルペスウイルスの細胞指向性を規定する分子機構の解明	有井 潤	臨床ウイルス学分野	1,380,000	補委	日本学術振興会
軟組織接着性チタン薄膜の接着力向上と中心静脈ポート固定への応用	柳本 泰明	肝胆膵外科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
周産期母児における抗精神病薬治療の適正化のためのファーマコメトリクス	矢野 育子	薬剤部	330,000	補委	日本学術振興会
運動で活性化され、加齢で減弱する骨格筋リモデリングプロセスのメカニズム	野村 和弘	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
線維筋痛症におけるIgGを介した病態メカニズムの解明	野村 有紀	麻酔科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
脈管奇形の悪化メカニズムを探る～血管平滑筋を巡る分子制御機構の解明～	野村 正	形成外科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
脳内全細胞を対象とした自閉症・統合失調症の新規創薬ターゲットの同定	野村 淳	生理学分野	210,000	補委	日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌のRa-223療法におけるNaF PET/MRの有用性検討	野上 宗伸	放射線医学分野	120,000	補委	日本学術振興会
統合オミックス解析による口腔がん制御機構の解明と創薬標的の網羅的探索	木本 明	口腔外科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
両心房の網羅的画像解析による心房細胞基質の未来予測	木内 邦彦	循環器内科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
日本人2型糖尿病感受性遺伝子GCN2が膵β細胞機能に及ぼす影響に関する検討	木村 真希(小柳真希)	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
脳動脈瘤壁に新規発見したミオグロビンの壁肥厚・菲薄に関わる分子生物学的役割の解明	木村 英仁	脳神経外科学分野	420,000	補委	日本学術振興会
腸脳相関における糖代謝制御機構の解明	木下 雅登	消化器内科学分野	540,000	補委	日本学術振興会
大学生の末梢血テロメア長を用いた若年自殺リスクマーカーの確立	毛利 健太郎	精神医学分野	390,000	補委	日本学術振興会
血管・リンパ管新生に着眼した歯性感染症－顎骨骨髓炎移行メカニズム解明と治療法探索	明石 昌也	口腔外科学分野	210,000	補委	日本学術振興会
包括的脂質メタエーサー解析による関節リウマチの新規バイオマーカーの探索	明石 健吾	膠原病リウマチ内科	330,000	補委	日本学術振興会

小計 28件

超高線量率スリットビームと金属ナノ粒子を併用した異次元・放射線治療法の開発	椋本 成俊	放射線腫瘍学分野	420,000	補委	日本学術振興会
小児ネフローゼ症候群とHLA class IIに関する病態解明研究	堀之内 智子	小児科学分野	210,000	補委	日本学術振興会
触覚センサーを有する手術支援ロボット用鉗子の開発	堀川 学	食道胃腸外科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
ケトン食による免疫原性亢進と免疫チェックポイント阻害剤による新たな膠芽腫治療戦略	堀 達雄	脳神経外科学分野	480,000	補委	日本学術振興会
3次元医用画像からの臓器自動抽出・人工知能が出力する確信度は精度改善に有用か？	堀 雅敏	放射線医学分野	300,000	補委	日本学術振興会
心臓大血管手術患者における溶血関連臓器障害の予防手段の確立を目指して	法華 真衣	麻酔科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
造血幹前駆細胞の時空間的移動ダイナミズムの解明と制御	片山 義雄	血液内科学分野	1,290,000	補委	日本学術振興会
ストレスによる筋萎縮の制御機構の解析	平田 悠	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	540,000	補委	日本学術振興会
腸内細菌由来のメッセージ物質の機能解明と循環器疾患との関連解明研究	平田 健一	循環器内科学分野	1,170,000	補委	日本学術振興会
低分子代謝のエピゲノム制御に着目したメラノーマの病態解明と新規治療標的の探索	福本 毅	皮膚科学分野	510,000	補委	日本学術振興会
p21をターゲットとした関節リウマチにおける関節破壊の制御機能の解析	福田 康治	整形外科科学分野	240,000	補委	日本学術振興会
心房細動と炎症の関連を解明するための心房筋炎症免疫細胞の単一細胞遺伝子解析	福沢 公二	循環器内科学分野	630,000	補委	日本学術振興会
Mo-99/Tc-99m国産化を実現するメソポーラスアルミナ吸着材の開発	福光 延吉	放射線腫瘍学分野	900,000	補委	日本学術振興会
糖質コルチコイドによるRNAメチル化を介したT細胞制御の解明	福岡 秀規	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
炭酸ガスを利用したロコモティブシンドロームに対する新たな予防・治療法の開発	福井 友章	整形外科科学分野	240,000	補委	日本学術振興会
がん悪液質に着目した口腔がん新規治療法の検討	武田 大介	口腔外科学分野	150,000	補委	日本学術振興会
メカノセプターTRPV4による椎間板変性に対する治療アプローチ	武岡 由樹	整形外科科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
小児摂食障害における脳波周波数解析に着目した認知機能予後予測と包括的病態解明	富岡 和美	小児科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
プロバイオティクス投与による下気道細菌叢への影響に関する研究	富岡 雄一郎	小児外科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
小児気道狭窄性疾患の評価のためのOCT(光干渉断層撮影)機器の開発	尾藤 祐子	小児外科学分野	240,000	補委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤による免疫関連有害事象の病態解明とバイオマーカーの探索	飛松 和俊	消化器内科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
小児ネフローゼ症候群の国際GWASメタ解析と抗ネフリン抗体に関する国際共同研究	飯島 一誠	小児科学分野	1,320,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞由来腎臓オルガノイドを用いた小児ネフローゼ症候群の発症機序の解明	飯島 一誠	小児科学分野	1,170,000	補委	日本学術振興会
レジスタントスターチによる腸内環境の改善と脂肪肝抑制効果の検討	畑澤 友里	消化器内科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
脊髄小脳変性症でのPKC α 酸化を介した神経保護機構の解明と新規治療法への応用	白藤 俊彦	生理学分野	330,000	補委	日本学術振興会
COPDにおけるエンドセリンの役割の解明	梅澤 佳乃子	呼吸器内科学分野	480,000	補委	日本学術振興会
茶カテキンコーティング金ナノ粒子を用いた新規放射線治療増感剤の開発	馬場 基	乳腺内分泌外科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
内皮型一酸化窒素合成酵素に着目した下痢関連溶血性尿毒症症候群の病態解明研究	忍頂寺 毅史	小児科学分野	270,000	補委	日本学術振興会

小計 28件

小胞体流動の分子メカニズムに関する研究	匂坂 敏朗	膜動態学分野	330,000	補委	日本学術振興会
糖尿病網膜神経変性におけるアクアポリン9の役割の解明	楠原 仙太郎	眼科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
口腔粘膜における光受容機序を探る～光受容タンパク質の作用～	楠元 順哉	口腔外科学分野	150,000	補委	日本学術振興会
膝頭十二指腸切除後の脂質吸収と脂質代謝異常の解明	南野 佳英	肝胆膵外科学分野	210,000	補委	日本学術振興会
「無細胞タンパク質合成系を用いた抗体作成」による免疫関連有害事象の病態解明	南 博信	腫瘍・血液内科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
先天性トキソプラズマ感染症におけるベア型レセプターを介した免疫逃避機構の解明	内田 明子	産科婦人科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
レジリエンスの新基礎医学的理解への挑戦	内匠 透	生理学分野	600,000	補委	日本学術振興会
自閉症ヒト脳オルガノイドの表現解析による病態の基礎的理解	内匠 透	生理学分野	3,120,000	補委	日本学術振興会
精神疾患のヒトES細胞モデルを用いたマルチスケール解析	内匠 透	生理学分野	900,000	補委	日本学術振興会
ヒトIPS細胞由来テストステロン産生Leydig細胞の作製と臨床応用に関する実験	藤澤 正人	腎泌尿器科学分野	60,000	補委	日本学術振興会
粘液線維肉腫に対するホウ素中性子捕捉療法(BNCT)を用いた新たな治療方法の開発	藤本 卓也	整形外科科学分野	390,000	補委	日本学術振興会
術後の低活動型せん妄に対するカフェインの治療薬としての有効性の検討	藤本 大地	麻酔科学分野	180,000	補委	日本学術振興会
脂質メディエーターに着目した好酸球中耳炎の感音難聴メカニズム解明と治療法探索	藤田 岳	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
膝腫瘍形成最初期におけるDNA脱メチル化制御の破綻とその分子機序の解明	藤倉 航平	病理診断学分野	300,000	補委	日本学術振興会
新生児敗血症に対するTrained immunity誘導に基づく新規治療法の開発	藤岡 一路	小児科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
炎症性腸疾患の線維性狭窄を標的とした新規治療開発のための基盤構築	渡邊 大輔	消化器内科学分野	570,000	補委	日本学術振興会
PET-MRIを利用した心臓サルコイドーシスの活動性定量評価	渡邊 慶明	放射線医学分野	60,000	補委	日本学術振興会
腫瘍反応性レジデントメモリーT細胞の誘導とその抗腫瘍効果	渡部 晃大	食道胃腸外科学分野	390,000	補委	日本学術振興会
iPS技術を用いた縦隔原発肉腫に対する個別化精密医療の確立	田中 雄悟	呼吸器外科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
分岐鎖アミノ酸代謝に注目した糖尿病性心筋症の病態解明と治療応用	田中 秀和	循環器内科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
悪性グリオーマのグルタミン飢餓状態による一炭素代謝経路の調整と新規治療標的の探索	田中 一寛	脳神経外科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
褐色脂肪細胞における多房性脂肪滴形態がエネルギー代謝に与える影響の解明	田守 義和	健康創造推進学分野	360,000	補委	日本学術振興会
前部側頭葉の言語可塑性に関わる神経ネットワーク基盤の解明	的場 健人	脳神経内科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
水痘帯状疱疹ウイルス潜伏感染・再活性化機構の解明	定岡 知彦	臨床ウイルス学分野	780,000	補委	日本学術振興会
遷延性術後痛におけるマクロファージのβ2アドレナリンシグナルと動態変化	坪井 ちづ	麻酔科学分野	390,000	補委	日本学術振興会
深部膿瘍に対するNon-thermal ablationを用いた新規治療の開発	辻田 有志	放射線医学分野	210,000	補委	日本学術振興会
患者由来オルガノイドを用いた早期肺癌のバイオマーカー探索	辻前 正弘	消化器内科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性心筋症における早期診断バイオマーカーと治療法の確立	長尾 学	立証検査医学分野	270,000	補委	日本学術振興会

小計 28件

悪性神経腫に対するPARGを標的とした新規治療法の開発と効果予測因子の探索	長嶋 宏明	脳神経外科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
獣医療における過酸化チタンナノ粒子を用いた新規・高精度放射線増感療法法の開発	長田 雅昭	放射線腫瘍学分野	180,000	補委	日本学術振興会
ミトコンドリアの正常化と癌関連線維芽細胞の再教育を目指した新規口腔癌治療法の開発	長谷川 巧実	口腔外科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
遠隔臓器におけるNK細胞抑制メカニズムに基づく転移制御治療の開発	長谷川 寛	食道胃腸外科学分野	600,000	補委	日本学術振興会
前十字靭帯損傷における徒手検査定量化システムの検証と確立:未固定凍結屍体での研究	長井 寛斗	整形外科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
アディポネクチンによる椎間板変性・炎症に対する治療法の開発	張 鍾穎	整形外科学分野	210,000	補委	日本学術振興会
ロボット支援Kinematic alignment TKAの生体力学的検討	中野 直樹	整形外科学分野	180,000	補委	日本学術振興会
乳酸シャトル概念に基づく網膜・視神経変性疾患の病態解明と治療法の探索	中村 誠	眼科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
微小気泡を利用したナノ粒子放射線増感治療法の高効率化	中山 雅央	放射線腫瘍学分野	270,000	補委	日本学術振興会
バーチャリアリティを用いたマウス社会性行動の感覚モダリティ解析	中井 信裕	生理学分野	30,000	補委	日本学術振興会
胸部大動脈術後脊髄再灌流障害の新たな細胞障害機序の解明と治療法の開発	中井 秀和	心臓血管外科学分野	180,000	補委	日本学術振興会
Dormant cellを用いたEwing肉腫新規治療の開発	竹森 俊幸	整形外科学分野	390,000	補委	日本学術振興会
放射光位相差X線CT法による心構造疾患群の構造解析に関する研究	築部 卓郎	心臓血管外科学分野	240,000	補委	日本学術振興会
膵臓正常組織に蓄積した遺伝子変異解析による膵癌発症のメカニズムの解明	池川 卓哉	消化器内科学分野	240,000	補委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤と遺伝子治療の併用による頭頸部癌に対する治療法の開発	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	1,080,000	補委	日本学術振興会
2光子顕微鏡による胎仔ミクログリアが仔の成長発達に及ぼす影響の解明	谷村 憲司	産科婦人科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
血管老化に着目した慢性血栓性肺高血圧症における血栓質化機序の解明	谷口 悠	循環器内科学分野	570,000	補委	日本学術振興会
ミクログリアによる情動変容を担う脳内組織恒常性の維持とその破綻機構の解明	谷口 将之	薬理学分野	540,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞による癌悪性化に関するシグナルネットワーク機構の解明	瀧口 豪介	食道胃腸外科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
JAK-STAT3経路に注目した熱傷誘発性骨格筋萎縮の新規治療戦略	大野 雄康	災害・救急医学分野	330,000	補委	日本学術振興会
ゲノム・エピゲノムデータを用いた若年自殺リスクのバイオマーカー開発	大塚 郁夫	精神医学分野	510,000	補委	日本学術振興会
冠動脈プラーク内部に発生する応力評価を用いた高リスクプラーク同定の試み	大竹 寛雅	循環器内科学分野	120,000	補委	日本学術振興会
配列特異的翻訳抑制蛋白質によるHippo-YAP経路の制御	大谷 淳二	分子細胞生物学分野	360,000	補委	日本学術振興会
エピキチンリガーゼ活性を制御するmiRNAのパーキンソン病治療に対する有用性検証	大村 友博	薬剤部	360,000	補委	日本学術振興会
small RNAを標的とした緑膿菌薬剤耐性機序の解明とその検査・制御方法の開発	大沼 健一郎	医療技術部臨床検査部門	450,000	補委	日本学術振興会
小児がんに対する麻酔薬の選択が予後および免疫機能へ与える影響	大井 まゆ	麻酔科学分野	180,000	補委	日本学術振興会
生体に害の少ない口腔癌に有効な新規抗癌剤候補分子の探索	村木 友美	口腔外科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
がん微小環境における細胞間シグナルによる腫瘍免疫制御	村田 陽二	生化学・シグナル統合学分野	450,000	補委	日本学術振興会

小計 28件

血小板増加症を伴う子宮頸癌におけるPDGFβの役割と新たな予後予測マーカーの確立	村田 友香	産科婦人科学分野	120,000	補委	日本学術振興会
人工知能を用いた膀胱癌CT自動診断システム開発とスクリーニング・早期診断への応用	祖父江 慶太郎	放射線医学分野	420,000	補委	日本学術振興会
MRIを用いた深層学習による胸部領域のPET吸収補正法の開発	曾 菲比	放射線医学分野	180,000	補委	日本学術振興会
機能性MDSCを標的とした新しいがん免疫療法の開発	船越 洋平	腫瘍・血液内科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
がん骨転移を引き起こすmicroRNAの探索とliquid biopsyへの応用	川上 洋平	整形外科分野	300,000	補委	日本学術振興会
免疫性神経疾患におけるT細胞制御遺伝子プログラムを応用した神経変性病態の解明	千原 典夫	脳神経内科学分野	1,170,000	補委	日本学術振興会
簡便かつ革新的な表面修飾DDSを応用した全がん対応の放射線増感ナノ粒子の開発	赤坂 浩亮	放射線腫瘍学分野	300,000	補委	日本学術振興会
低細胞毒性の界面活性剤が有する細胞増生促進作用の研究	石田 泰久	形成外科学分野	150,000	補委	日本学術振興会
レニンアンジオテンシン系に着目した先天性腎尿路異常の腎障害進展機序の解明	石森 真吾	小児科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
80歳以上高齢者に対するSARS-CoV-2ワクチン接種の有効性および有効期間解明	石丸 華子	臨床ウイルス学分野	330,000	補委	日本学術振興会
COL4A5遺伝子におけるNon-Glyミセンス変異の病態発症機序解明	青砥 悠哉	小児科学分野	540,000	補委	日本学術振興会
トキソプラズマ寄生胞膜の破壊を先導するIRGB6とGBPの分子構造と機能の解析	西條 由見子(濱野由見子)	生体構造解剖学分野	330,000	補委	日本学術振興会
胸腺におけるHippo経路の機能	西尾 美希	分子細胞生物学分野	330,000	補委	日本学術振興会
放射線診断学の画像とレポートを用いた深層学習の応用	西尾 瑞徳	放射線医学分野	690,000	補委	日本学術振興会
ヒトヘルペスウイルス6感染に必須なウイルスリガンドの立体構造決定と機能解析	西村 光広	臨床ウイルス学分野	330,000	補委	日本学術振興会
過酸化チタンナノ粒子と腫瘍標的エクソソームで運搬する新規免疫放射線増感療法の開発	西村 英輝	放射線腫瘍学分野	300,000	補委	日本学術振興会
発生部位による遺伝子変異の違いに着目した胆道癌発症メカニズムの解明	西川 義浩	消化器内科学分野	540,000	補委	日本学術振興会
小児心臓検診用マルチモーダル人工知能(AI)モデルの開発研究	西森 誠	分子疫学分野	660,000	補委	日本学術振興会
長時間脳波データ解析とプロテオミクスによる包括的な急性脳症の病態解明	西山 将広	小児科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
マクロファージ機能を標的とした髄芽腫の新規治療法の開発	西原 賢在	脳神経外科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
AstragalusとSGLT2阻害薬併用による慢性腎臓病治療法の開発	西 慎一	腎臓・免疫内科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
鼻副鼻腔神経内分泌悪性腫瘍の遺伝子変化と免疫チェックポイント分子発現に関する研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
視床下部タニサイトにおけるネクチン-1によるグルコース濃度の感知制御機構	清水 達太	病態シグナル学部門	420,000	補委	日本学術振興会
還元型コエンザイムQ10による心臓の放射線防護法の開発	清水 康之	放射線腫瘍学分野	510,000	補委	日本学術振興会
遺体を用いた外科手術手技トレーニングに適する飽和食塩水法再灌流の条件検討と最適化	清水 貴大	生体構造解剖学分野	0	補委	日本学術振興会
腸内アミノ酸調整による腫瘍発生の回避とその機序の解明	星 奈美子	消化器内科学分野	1,080,000	補委	日本学術振興会
鉄キレート作用を介したホルモンによる新規耐糖能改善メカニズムの解明	菅原 健二	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
細胞の極性を担う非中心体微小管ネットワーク形成機構	仁田 亮	生体構造解剖学分野	1,410,000	補委	日本学術振興会

小計 28件

クロマチンリモデリングから解き明かす造血幹細胞のエピジェネティクス制御	仁田 英里子	生体構造解剖学分野	300,000	補委	日本学術振興会
膵β細胞量調節における糖尿病感受性遺伝子GCN2と胎生栄養環境の相互作用の解明	神野 歩	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	390,000	補委	日本学術振興会
混合型小細胞癌の発生機序解明と治療方針の再考	神保 直江	病理診断学分野	750,000	補委	日本学術振興会
頭部血管肉腫患者の血漿におけるメタボミクス解析と腫瘍増殖機序の解明	神保 晴紀	皮膚科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
ディープラーニングによるMRIの3次元情報を用いた前立腺がん再発リスク分析	神保 岳大	腎泌尿器科学分野	480,000	補委	日本学術振興会
小児嚢胞性腎疾患のゲノム診療基盤の構築と特異的治療法の開発	森貞 直哉	小児科学分野	240,000	補委	日本学術振興会
母児間鉄代謝に関わる新規因子の解明	森岡 裕香	附属動物実験施設	360,000	補委	日本学術振興会
自家組織を犠牲にしない新規骨再生療法の開発	新倉 隆宏	整形外科科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
内因性光線過敏症における病態解明	織田 好子	皮膚科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
慢性高血糖マウスのインスリン抵抗性と好中球機能からみた新しい術前血糖管理法の開発	上野 喬平	麻酔科学分野	150,000	補委	日本学術振興会
高空間・高時間分解能ダイナミックMRIによる新しい膀胱癌深達度診断法の開発	上野 嘉子	放射線医学分野	120,000	補委	日本学術振興会
肝動脈塞栓術後のガン微小環境におけるマクロファージ極性制御に基づく新規治療戦略	上嶋 英介	放射線医学分野	180,000	補委	日本学術振興会
疾患iPS細胞を用いたLeber遺伝性視神経症の病態研究	上田 香織	眼科学分野	450,000	補委	日本学術振興会
B型・C型肝炎ウイルスの遺伝子変化の特徴と病態との関連性の解明	上田 佳秀	消化器内科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
シュワン細胞による腸管神経系の再形成の誘導	上坂 敏弘	神経分化・再生分野	390,000	補委	日本学術振興会
ミトコンドリア病モデル内耳細胞を用いたミトコンドリア難聴の病態解明	上原 奈津美	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	390,000	補委	日本学術振興会
皮質脳波コネクトーム解析による脳内言語表現の同定と脳切除後の可塑性再構築の解明	松本 理器	脳神経内科学分野	1,800,000	補委	日本学術振興会
ヒト高次運動機能の超適応:皮質脳波コネクトミクスによる脳切除後の潜在回路の解明	松本 理器	脳神経内科学分野	810,000	補委	日本学術振興会
AI機械学習でつくる頭部外傷の個別化医療のための新しい重症度指標	松尾 和哉	脳神経外科学分野	570,000	補委	日本学術振興会
microRNAを用いた生物学的Adaptive radiotherapyの検討	松尾 圭朗	放射線腫瘍学分野	390,000	補委	日本学術振興会
涙を用いた大腸癌術後再発早期検出法の開発とその応用	松田 武	食道胃腸外科学分野	390,000	補委	日本学術振興会
切除可能進行胃癌患者に対する術前化学療法における免疫活性バイオマーカーの開発	松田 佳子	食道胃腸外科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
神経周膜のバリア機能修復は口腔外科術後神経合併症や神経障害性疼痛の治療に有効か?	松村 恵実	口腔外科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
慢性心不全患者における緩和ケアのアンメットニーズの探索および介入方法の開発	松沼 亮	緩和支援治療科	300,000	補委	日本学術振興会
脈絡膜炎と免疫におけるYAP/TAZの役割の解明	松宮 亘	眼科学分野	210,000	補委	日本学術振興会
CGM数理解析による血糖域指標推奨プロトコールの開発	松岡 敦子	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	540,000	補委	日本学術振興会
C型肝炎ウイルスが関与する新規分解機構の解明	松井 千絵子	感染制御学分野	450,000	補委	日本学術振興会
KIAA1462/JCADを標的としたARDSの革新的治療法の開発	小林 和幸	呼吸器内科学分野	360,000	補委	日本学術振興会

小計 28件

福山型筋ジストロフィーおよび類縁疾患の病態解析と治療法・薬効評価法の開発	小林 千浩	分子脳科学分野	1,860,000	補委	日本学術振興会
心不全におけるグルタミン代謝制御機構の解明と新規治療戦略の構築	小林 成美	循環器内科学分野	390,000	補委	日本学術振興会
細胞・細胞間の放射線応答を予測するエクソソーム由来miRNAの網羅的解析	小林 加奈	放射線腫瘍学分野	300,000	補委	日本学術振興会
糖尿病モデルマウスにおける術後認知機能障害への脳内モノアミンの関与	小幡 典彦	麻酔科学分野	150,000	補委	日本学術振興会
腸上皮細胞の寿命制御に関わる分子基盤の解明	小谷 武徳	生化学・シグナル統合学分野	270,000	補委	日本学術振興会
心臓手術前のHMB投与による、周術期身体機能改善ならびに予後改善効果の検証	小川 真人	リハビリテーション部	120,000	補委	日本学術振興会
運動と不動化による筋量とエネルギー代謝の制御機構の解析	小川 渉	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,290,000	補委	日本学術振興会
高頻脈ペーシングを伴わない大動脈弁閉鎖不全症治療のための非臨床研究	小西 明英	臨床研究推進センター	330,000	補委	日本学術振興会
CD47-SIRP α系による樹状細胞の生存制御の分子基盤	小森 里美	生化学・シグナル統合学分野	540,000	補委	日本学術振興会
門脈血流・肝機能定量MRIによる分離門脈血流・肝機能評価の検討	小松 昇平	肝胆膵外科学分野	60,000	補委	日本学術振興会
C型肝炎ウイルスによる脂肪滴肥大化維持の分子機構とウイルス学的意義の解明	勝二 郁夫	感染制御学分野	300,000	補委	日本学術振興会
小児・AYA世代の骨軟部肉腫に対する吸収性スペーサー併用陽子線治療の確立	出水 祐介	放射線腫瘍学分野	300,000	補委	日本学術振興会
妊娠初期のプロテインS、プロテインC抗凝固因子の変動と産科異常との関連解析	出口 雅士	産科婦人科学分野	240,000	補委	日本学術振興会
マクロファージ-線維芽細胞の協調作用に着目した口腔癌の新規予防・診断標的の探索	重岡 学	病理学分野	270,000	補委	日本学術振興会
ヒト脳における電気生理的コネクタムの構築と神経疾患へのグラフ理論的アプローチ	十河 正弥	脳神経内科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
血中マイクロRNA解析による唾液腺癌バイオマーカーの開発	手島 直則	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
膠芽腫に対するアミノ酸代謝阻害併用ケトン食療法の基礎的研究	篠山 隆司	脳神経外科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
慢性ストレスによる行動変容の多様性を生み出す神経回路メカニズムの解明	篠原 亮太	薬理学分野	330,000	補委	日本学術振興会
「脳・こころ」ストレスと動脈硬化疾患：脂質代謝物解析が解き明かすそのメカニズム	篠原 正和	分子疫学分野	330,000	補委	日本学術振興会
スモールデータ型AIによる創傷診断システムの開発	寺師 浩人	形成外科学分野	1,380,000	補委	日本学術振興会
ナノ粒子による血管新生の調整は癌免疫療法を賦活化するか？	寺岡 駿	口腔外科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
miR-622内包人工エクソソームによる卵巣癌の浸潤・転移と微小環境制御	寺井 義人	産科婦人科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
自己抗原の同定に基づいた消化器系難病の病態解明と新しい診療体系の確立	児玉 裕三	消化器内科学分野	1,710,000	補委	日本学術振興会
Ror1-Rifシグナルによる血管擬態メカニズムの解明	紙崎 孝基	細胞生理学分野	360,000	補委	日本学術振興会
頭頸部食道重複癌における共通遺伝子変異の網羅的解析	四宮 弘隆	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	15,000	補委	日本学術振興会
小胞体の形態変化を起点とする代謝プログラミングに関する研究	山本 泰憲	膜動態学分野	330,000	補委	日本学術振興会
HPA軸における循環血液中microRNAの生理的・病理的意義の解明	山本 雅昭	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	210,000	補委	日本学術振興会
イメグリミンの消化管作用解明の研究	山田 倫子	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	690,000	補委	日本学術振興会

小計 28件

aβ2GPI/MHC class IIによる妊娠合併症の動物モデル作成と治療法開発	山田 秀人	産科婦人科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
ヒト剖検試料を用いたNO関連タンパク質解析による虚血性心疾患死後診断の研究	山崎 元太郎	法医学分野	330,000	補委	日本学術振興会
EOB造影MRI T1 mapを用いた線維性間質定量画像による肺癌の悪性度予測	山口 尊	放射線医学分野	90,000	補委	日本学術振興会
終末期患者のQOL向上を目指した呼吸困難治療アルゴリズム作成に関する研究	山口 崇	緩和支援治療科	123,000	補委	日本学術振興会
救急外来からの連続的な脳波データを活用した非けいれん性発作の神経傷害機構の解明	山口 宏	小児科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
循環器疾患における腸内細菌叢の役割の解明と新規治療標的の探索	山下 智也	循環器内科学分野	780,000	補委	日本学術振興会
細胞外小胞に着目した膠原病の新規診断法および治療法の開発	三枝 淳	膠原病リウマチ内科	390,000	補委	日本学術振興会
免疫抑制ネオセルフ化ペプチドワクチンによる膠原病、産科異常治療法の確立	笹川 勇樹	産科婦人科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
環境因子による細胞内シグナル増強と腫瘍悪性化についての相関の解明	榑原 晶子	口腔外科学分野	240,000	補委	日本学術振興会
プラスミドベクターを用いた抗菌ペプチドの局所導入と創傷治療への応用	榑原 俊介	形成外科学分野	180,000	補委	日本学術振興会
Lowe症候群およびDent disease-2の発症機序の解明と新規治療開発	榑原 菜々	小児科学分野	390,000	補委	日本学術振興会
膀胱癌に対するCD47-SIRPシグナル系を利用した新たな免疫がん治療法の開発	坂本 茉莉子	腎泌尿器科学分野	660,000	補委	日本学術振興会
先駆的解析法に基づく先天性下垂機能低下症の病因解明と新規疾患概念の創出	坂東 弘教	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,110,000	補委	日本学術振興会
ヒト大腸におけるメホルミンのグルコース排泄機構の解明	坂口 一彦	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	390,000	補委	日本学術振興会
脂肪組織の健康的増大機構の解析	細川 友誠	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	540,000	補委	日本学術振興会
帯状疱疹後神経痛におけるfunctional MRIによる脊髄刺激療法の効果予測	佐藤 仁昭	麻酔科学分野	180,000	補委	日本学術振興会
吸収性スプレーを用いた体内空間可変・定位放射線治療の実用化研究	佐々木 良平	放射線腫瘍学分野	1,440,000	補委	日本学術振興会
自己血T細胞とpH反応溶解カプセルでナノ粒子を輸送するケミカル免疫がん治療の開発	佐々木 良平	放射線腫瘍学分野	540,000	補委	日本学術振興会
無機ナノ粒子表面へ抗体結合技術を用いた新規放射線増感療法の国際共同開発	佐々木 良平	放射線腫瘍学分野	1,680,000	補委	日本学術振興会
急性腸管虚血症に対するインドシアニンググリーン動注による腸管血流評価の有効性の検討	佐々木 康二	放射線医学分野	60,000	補委	日本学術振興会
急性脳主幹動脈閉塞血管内再開通療法における術中評価法と最適な治療手技戦略の開発	今堀 太一郎	脳神経外科学分野	90,000	補委	日本学術振興会
急性脳主幹動脈閉塞に対する血管内再開通療法の血栓回収機構解明と新規治療戦略創成	今堀 太一郎	脳神経外科学分野	3,600,000	補委	日本学術振興会
癒着胎盤の発生に関わるmiRNAの同定および癒着胎盤分娩前評価法の確立	今福 仁美	産科婦人科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
クライオ電子顕微鏡解析による転写メダイエーター複合体の転写制御機構の解明	今崎 剛	生体構造解剖学分野	330,000	補委	日本学術振興会
網膜内に析出するフィブリノーゲンに着目した糖尿病黄斑浮腫の病態解明	今井 尚徳	眼科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
癌細胞と間質細胞との直接接触による細胞間相互作用を介した食道癌の進展機構の解析	狛 雄一朗	病理学分野	360,000	補委	日本学術振興会
変形性膝関節症患者に対する脂肪組織由来再生細胞移植の有効性・機序解明に関する研究	黒田 良祐	整形外科科学分野	960,000	補委	日本学術振興会
紫外線による多段階皮膚発癌における網羅的遺伝子解析	国定 充	皮膚科学分野	270,000	補委	日本学術振興会

小計 28件

大腸癌における接着因子NCAMと腫瘍関連マクロファージとの相互作用解析機構の解明	高瀬 信尚	食道胃腸外科学分野	120,000	補委	日本学術振興会
デジタルヘルス技術を活用した新たな循環器遠隔診療体制の構築	高見 充	循環器内科学分野	240,000	補委	日本学術振興会
リキッドバイオプシーを用いた子宮内膜症進展・癌化の早期診断ツールの開発	高橋 良輔	産科婦人科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
膜型分子CD47によるマクロファージの細胞貪食制御とその分子機序の解明	高井 智子	生化学・シグナル統合学分野	570,000	補委	日本学術振興会
カルベノキソロン作用を通して行う脳虚血の包括的メカニズムの解明と治療法の探究	甲田 将章	脳神経外科学分野	240,000	補委	日本学術振興会
マクロファージをターゲットとした新しい心血管イベント予防法開発	江本 拓央	循環器内科学分野	840,000	補委	日本学術振興会
神経細胞とグリア細胞からなる微小環境の再現によるADHDの病態解明	江口 典臣	精神医学分野	330,000	補委	日本学術振興会
内分泌細胞由来大腸癌に対する新規治療法の探索	向山 順子	食道胃腸外科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
イブプロフェン含嗽剤の作用時間の持続と使用時の刺激感の減少を目指した製剤化研究	五百蔵 武士	薬剤部	30,000	補委	日本学術振興会
Wntシグナルに基づく新たな直腸癌化学放射線免疫複合療法の試み	古出 隆大	食道胃腸外科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
ストレスによる認知情動変容を担う多階層プロセスと精神疾患への関与の構成的理解	古屋敷 智之	薬理学分野	7,770,000	補委	日本学術振興会
青色光による毛周期制御の解明	原岡 剛一	形成外科学分野	210,000	補委	日本学術振興会
サルコペニアの骨格筋に対する経皮的炭酸ガス投与法の効果について	原 仁美	整形外科学分野	390,000	補委	日本学術振興会
深部臓器発生の悪性腫瘍に対する新規放射線増感療法としての飽和炭酸水動注療法の開発	元津 倫幸	放射線医学分野	150,000	補委	日本学術振興会
地域基盤型医学教育の中期的効果に及ぼすプログラムの検討	見坂 恒明	地域医療支援学部門	360,000	補委	日本学術振興会
がん早期診断における涙液エクソソームの有用性の検討	犬伏 祥子	乳腺内分泌外科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
DKK1/CKAP4シグナルを標的とした肝細胞癌に対する新規抗腫瘍治療の開発	権 英寿	肝胆膵外科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
食物アレルギーの抗原同定と診断・治療法の開発	桂田 直子	呼吸器内科学分野	240,000	補委	日本学術振興会
プロバイオティクスによる非結核性抗酸菌症の治療	桂田 雅大	呼吸器内科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
局所効果が全身へ波及する無機ナノ粒子併用免疫放射線治療戦略	窪田 光	放射線腫瘍学分野	360,000	補委	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎におけるアミノ酸とアミノ酸トランスポーターの役割の検討	具 潤重	消化器内科学分野	240,000	補委	日本学術振興会
腹腔鏡下手術におけるAIを用いた自動追尾カメラシステムの開発	金治 新悟	食道胃腸外科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
日本人Gitelman症候群の全容解明に向けた研究	近藤 淳	小児科学分野	420,000	補委	日本学術振興会
ヒト染色体15q11-q13自閉症領域の責任遺伝子同定と病態メカニズムの解明	玉田 紘太	生理学分野	360,000	補委	日本学術振興会
頭蓋底外科手術に適した手術機器開発と手術機器統合運用による手術成績改善と人材教育	魚住 洋一	脳神経外科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
3次元積層造形技術を用いた革新的な新規頭頸部放射線治療用固定具の研究開発	宮脇 大輔	放射線腫瘍学分野	330,000	補委	日本学術振興会
アストロサイトの細胞間接着分子による神経回路の維持と破綻の制御機構	宮田 宗明	病態シグナル学部門	300,000	補委	日本学術振興会
神経回路可視化と光操作による薬物依存形成脳内機構の解明	橘 吉寿	生理学分野	1,320,000	補委	日本学術振興会

小計 28件

マウスピースが不随意運動を改善する脳内メカニズムの探索	橘 吉寿	生理学分野	450,000	補委	日本学術振興会
エクソソームを利用した過酸化チタンナノ粒子による新規放射線増感療法の基礎的検討	岩下 和真	放射線腫瘍学分野	330,000	補委	日本学術振興会
がん患者の集学的治療過程における新たな骨格筋評価システムの開発	館林 大介	リハビリテーション部	630,000	補委	日本学術振興会
超音波トラッキングによるサルコペニアの横隔膜評価法開発:運動ニューロン減少の関与	関口 兼司	脳神経内科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
疾患モデル-臨床検体-データベースを用いたGAL3BPアルツハイマー病治療法開発	関 恒慶	災害・救急医学分野	420,000	補委	日本学術振興会
人工知能技術による野球肘検診支援システムの確立	乾 淳幸	整形外科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
プロテインキナーゼCシグナリングによるがん細胞の細胞死回避機構の解明	梶本 武利	生化学・シグナル統合学分野	450,000	補委	日本学術振興会
ユビキチン化反応によりERファジーが終結する分子機構	梶保 博昭	膜動態学分野	330,000	補委	日本学術振興会
胃癌腫瘍免疫微小環境における3次リンパ構造の成熟機構の解明と抗体取得	掛地 吉弘	食道胃腸外科学分野	720,000	補委	日本学術振興会
徐放化抗がん剤と非金属脊椎インプラントを併用した新しい脊椎転移治療に関する研究	角谷 賢一朗	整形外科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
内耳障害に対するステロイド治療のエビデンス構築のための研究	柿木 章伸	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
mTOR阻害薬テモシロリムスによる椎間板変性に対する治療アプローチ	垣内 裕司	整形外科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
TFL によるCART細胞療法の効果増強に関する研究	皆川 健太郎	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	390,000	補委	日本学術振興会
人工骨肉腫幹細胞を用いた骨肉腫新規治療の開発	河本 旭哉	整形外科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
血栓後症候群における予測因子の探索と静脈弁機能変化の検証	岡野 光真	循環器内科学分野	240,000	補委	日本学術振興会
金属ナノ粒子を応用した新規・免疫放射線増感療法の開発	岡本 欣晃	放射線腫瘍学分野	270,000	補委	日本学術振興会
大動脈瘤のMRエラストグラフィ:瘤の「硬さ」はEVAR後の再増大を予測しうるか?	岡田 卓也	放射線医学分野	540,000	補委	日本学術振興会
生体イメージング法による全身麻酔薬の作用メカニズム解明	岡田 卓也	麻酔科学分野	390,000	補委	日本学術振興会
シヌクレイン/バチーにおける細胞外 α シヌクレインによる新規病変伝播機構の解明	岡田 太郎	生化学・シグナル統合学分野	390,000	補委	日本学術振興会
ヒト大動脈解離におけるシングルセルRNAシーケンスによる成因解析	岡田 健次	心臓血管外科学分野	450,000	補委	日本学術振興会
MIFに着目した低酸素暴露と統合失調症を結ぶ分子メカニズムの解明	岡崎 賢志	精神医学分野	300,000	補委	日本学術振興会
粒子線治療用ヘリウムイオン(Helium Ion)CT画像システムの新規開発	王 天縁	放射線腫瘍学分野	180,000	補委	日本学術振興会
ヒトマウスを用いたヒト骨髄由来細胞/食道扁平上皮癌細胞相互作用の解析	横崎 宏	病理学分野	210,000	補委	日本学術振興会
腫瘍浸潤リンパ球の動態を考慮した食道癌新規術前療法の開発	押切 太郎	食道胃腸外科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
海馬神経細胞-アストロサイトによる4種類の三者間シナプスの形成機構	塩谷 元	病態シグナル学部門	510,000	補委	日本学術振興会
シュワン性神経幹細胞の生理と病態解明	榎本 秀樹	神経分化・再生分野	1,350,000	補委	日本学術振興会
疾患変異を修復された内在性幹細胞の組織再建能の検証	榎本 秀樹	神経分化・再生分野	600,000	補委	日本学術振興会
PLC ϵ を標的とした呼吸器疾患の新たな治療法の構築	永野 達也	呼吸器内科学分野	270,000	補委	日本学術振興会

小計 28件

濾胞ヘルパーT細胞生物学に着目した養子免疫療法の開発	永田 真知子	食道胃腸外科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
脳波・炎症マーカー・脳血流の解析によるAESD発症早期の病態・発症トリガーの解明	永瀬 裕朗	小児科学分野	210,000	補委	日本学術振興会
社会ストレスによる樹状突起委縮を担う分子機序の解明とその制御法の確立	永井 裕崇	薬理学分野	300,000	補委	日本学術振興会
ハイパースペクトルカメラを用いた次世代肝胆膵外科手術ナビゲーションシステムの確立	浦出 剛史	肝胆膵外科学分野	30,000	補委	日本学術振興会
CD47-SIRP α 結合阻害特殊環状ペプチドによる革新的免疫療法の開発	羽間 大祐	呼吸器内科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
甲状腺高分化癌の未分化形質獲得機構の解明及び新規バイオマーカーの検討	稲瀬 安希	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学分野	180,000	補委	日本学術振興会
集中治療後症候群(PICS)の病態解明と脳内炎症制御に注目した治療戦略	井上 茂亮	災害・救急医学分野	1,110,000	補委	日本学術振興会
大動脈解離の発生と進展に好中球が与える影響の検討	井上 大志	心臓血管外科学分野	600,000	補委	日本学術振興会
過敏性腸症候群の腸管透過性の亢進を制御する腸内細菌および宿主の病態解析	井上 潤	消化器内科学分野	390,000	補委	日本学術振興会
ヒトiPS細胞を用いた自己免疫性下垂体疾患の病態解明	井口 元三	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	300,000	補委	日本学術振興会
前肢に存在する「神経様細胞」の異常産生と、神経芽腫発症の共通分子基盤を探る	伊藤 圭祐	神経分化・再生分野	360,000	補委	日本学術振興会
サイトカインストームを制御する癒痕形成抑制を目指した新規治療法の開発	伊賀 利香	口腔外科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
レジスタントスターチによるDysbiosis改善が肝不全の易感染状態に与える影響	安富 栄一郎	消化器内科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
α アクチニン3欠損はDMD患者のiPS由来心筋細胞においてタイチン分解を促進する	栗野 宏之	小児科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
NKT細胞活性化ワクチンによる腫瘍内レジデントメモリーT細胞の誘導と抗腫瘍効果	阿部 智喜	食道胃腸外科学分野	330,000	補委	日本学術振興会
新生児における光線療法によるDNA損傷機序の解明および新規新生児黄疸治療法の開発	阿部 真也	小児科学分野	390,000	補委	日本学術振興会
膵癌の化学療法感受性・予後予測のためのAI画像診断技術の開発	山田 恭孝	消化器内科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
進行直腸癌の術前化学放射線治療前後における腸内細菌解析およびバイオマーカーの開発	向山 知佑	食道胃腸外科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
自然免疫制御によるがん細胞の生存・維持の分子基盤の解明	的崎 尚	生体シグナル制御学部門	2,820,000	補委	日本学術振興会
マクロファージによるがん細胞の貪食を強力に誘導する革新的抗腫瘍薬の開発	的崎 尚	生体シグナル制御学部門	750,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌に対する超音波照射と免疫チェックポイント阻害薬の併用治療の検討	前田 光毅	腎泌尿器科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
心の健康を増進するレジリエンスの生物学的基盤の解明	古屋敷 智之	薬理学分野	1,890,000	補委	日本学術振興会
多面的癌制御でBNCTの効果を飛躍的に向上に導く薬剤の基礎的研究	福光 延吉	放射線腫瘍学分野	660,000	補委	日本学術振興会
腸内細菌制御により運動と同等の効果を褐色脂肪組織に与える研究	平田 健一	循環器内科学分野	750,000	補委	日本学術振興会
クライオ電子顕微鏡による細胞内分子構造解析法:微小管形成の場を原子レベルで捉える	仁田 亮	生体構造解剖学分野	750,000	補委	日本学術振興会
クロススケール細胞内分子構造動態解析が解明する細胞骨格ネットワーク構築とその破綻	仁田 亮	生体構造解剖学分野	4,920,000	補委	日本学術振興会
ICU入室患者の上下肢神経筋電気刺激療法:筋力、代謝、長期予後に与える影響	中西 信人	災害・救急医学分野	240,000	補委	日本学術振興会
細胞の抱き込み形態を制御するメカニズムの解明と操作	富樫 英	分子細胞生物学分野	480,000	補委	日本学術振興会

小計 28件

B型肝炎ウイルスRNAの分解に関わる新規Nrf2-Prdx1経路の解析	デン リン	感染制御学分野	270,000	補委	日本学術振興会
癌抑制ドライバー経路の制御機構	鈴木 聡	分子細胞生物学分野	2,340,000	補委	日本学術振興会
汗孔角化症の病態メカニズム解明を通じたヒト細胞競合の理解	久保 亮治	皮膚科学分野	1,290,000	補委	日本学術振興会
消化管グルコース排泄の生理・病理的意義に関する包括的解析	小川 渉	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	2,040,000	補委	日本学術振興会
新人看護師の成長に影響する「社会人基礎力」の検討と指導者に求められる能力の再構築	ウィリアムソン 彰子	看護部	120,000	補委	日本学術振興会
放射線性骨髄炎における新規治療法の開発	岩田 英治	口腔外科学分野	270,000	補委	日本学術振興会
視神経脊髄炎スペクトラム障害におけるB細胞制御機構の解明	赤谷 律	脳神経内科学分野	360,000	補委	日本学術振興会
Assessment of a potential application of endogenous stem cells to treat congenital disorders	Sunardi Mukhamad	神経分化・再生分野	330,000	補委	日本学術振興会

小計 8件

計 444件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類
2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hiromasa Otake, Masaru Ishida, Shinsuke Nakano, et al.	循環器内科	Comparison of MECHANISM of early and late vascular responses following treatment of ST-elevation acute myocardial infarction with two different everolimus-eluting stents: a randomized controlled trial of biodegradable versus durable polymer stents.	Cardiovascular intervention and therapeutics.2022.7.27;38(1):75-85	Original Article
2	Kazutaka Nakasone, Makoto Nishimori, Kunihiko Kiuchi, et al.	循環器内科	Development of a Visualization Deep Learning Model for Classifying Origins of Ventricular Arrhythmias.	Circulation journal:official journal of the Japanese Circulation Society.2022.7.25;86(8):1273-1280	Original Article
3	Hiroyuki Fujii, Yu Taniguchi, Sachiyo Yoneda, et al.	循環器内科	Efficacy and Safety of Balloon Pulmonary Angioplasty for Patients With Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension and Comorbid Chronic Obstructive Pulmonary Disease.	Journal of the American Heart Association.2023.2.7;12(3):e026466	Original Article
4	Masataka Suzuki, Yu Izawa, Hiroshi Fujita, et al.	循環器内科	Efficacy of myocardial washout of 99mTc-MIBI/Tetrofosmin for the evaluation of inflammation in patients with cardiac sarcoidosis: comparison with 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography findings.	Annals of nuclear medicine.2022.6;36(6):544-552	Original Article
5	Masato Ogawa, Naofumi Yoshida, Michikazu Nakai, et al.	循環器内科	Hospital-associated disability and hospitalization costs for acute heart failure stratified by body mass index- insight from the JROAD/JROAD-DPC database.	International journal of cardiology.2022.8.24;367:38-44	Original Article
6	Naofumi Yoshida, Masato Ogawa, Michikazu Nakai, et al.	循環器内科	Impact of body mass index on in-hospital mortality for six acute cardiovascular diseases in Japan.	Scientific reports.2022.11.7;12(1):18934-18934	Original Article

計 6 件

7	Keisuke Miwa, Yu Taniguchi, Hiroyuki Fujii, et al.	循環器内科	Microvasculopathy Evaluated by Dual-Energy Computed Tomography in Patients with Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension and Pulmonary Arterial Hypertension.	Life (Basel, Switzerland).2022.8.15;12(8):1232	Original Article
8	Shunsuke Kakizaki, Hiromasa Otake, Fumiyasu Seike, et al.	循環器内科	Optical Coherence Tomography Fractional Flow Reserve and Cardiovascular Outcomes in Patients With Acute Coronary Syndrome.	JACC. Cardiovascular interventions.2022.10.24;15(20):2035-2048	Original Article
9	Yusuke Fukuyama, Hiromasa Otake, Fumiyasu Seike, et al.	循環器内科	Potential relationship between high wall shear stress and plaque rupture causing acute coronary syndrome	Heart and Vessels.Springer Science and Business Media LLC.2023.1.9;38(5):634-644	Original Article
10	Kenichi Yanaka, Kazuhiko Nakayama, Yu Taniguchi, et al.	循環器内科	RC time (resistance × compliance) is related to residual symptom after pulmonary endarterectomy in chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	International journal of cardiology. Heart & vasculature.2022.6;40:101031-101031	Original Article
11	Koichi Nakamura, Takayoshi Toba, Hiromasa Otake, et al.	循環器内科	Real-world clinical outcomes of percutaneous transluminal septal myocardial ablation for patients with drug-refractory hypertrophic obstructive cardiomyopathy: results from a retrospective multicenter registry of non-high-volume centers.	Heart and vessels.2022 Nov;37(11):1937-1946	Original Article
12	Takuo Emoto, Hiroyuki Yamamoto, Tomoya Yamashita, et al.	循環器内科	Single-Cell RNA Sequencing Reveals a Distinct Immune Landscape of Myeloid Cells in Coronary Culprit Plaques Causing Acute Coronary Syndrome.	Circulation.2022.5.3;145(18):1434-1436	Original Article
13	Toshihiro Nakamura, Kunihiko Kiuchi, Koji Fukuzawa, et al.	循環器内科	The impact of the atrial wall thickness in normal/mild late-gadolinium enhancement areas on atrial fibrillation rotors in persistent atrial fibrillation patients.	Journal of arrhythmia.2022.4;38(2):221-231	Original Article

計 7 件

14	Kimihiko Goto, Keiji Kono, Hideki Fuji, et al.	腎臓内科	Clinical value of serum cholinesterase levels in Nephrotic syndrome: an observational study.	BMC nephrology.2022 Apr 2;23(1):128-128	Original Article
15	Mao Shimizu, Hideki Fuji, Keiji Kono, et al.	腎臓内科	Screening for Fabry disease among male patients on hemodialysis in Awaji Island	Therapeutic Apheresis and Dialysis.2022 Dec;26(6):1187- 1192	Original Article
16	Shunsuke Goto, Oguchi H, Sakai K, et al.	腎臓内科	Association between expanded criteria for living kidney donors and renal biopsy findings	J Nephrol.2022 Sep;35(7):1809	Original Article
17	Daisuke Kanai, Hideki Fuji, Kentaro Nakai, et al.	腎臓内科	Statin use Influence on the occurrence of acute kidney injury in patients with peripheral arterial disease	J Atheroscler Thromb.2022 Nov 1;29(11):1646-1654	Original Article
18	Moa Shimizu, Hideki Fuji, Keiji Kono, et al.	腎臓内科	Screening for Fabry disease among Male Hemodialysis Patients in Awaji Island	Ther Apher Dial.2022 Dec;23(1):153	Original Article
19	Hideki Fuji, Hamano T, Tsuchiya K, et al.	腎臓内科	Not baseline but time- dependent erythropoiesis- stimulating agent responsiveness predicts cardiovascular disease in hemodialysis patients receiving epoetin beta pegol: A multicenter prospective PARAMOUNT-HD Study	Int J Cardiol.2023 Mar 15;375(110):118	Original Article
20	Shohei Abe, Arata Sakai, Atsuhiko Masuda, et al.	消化器内科	Advantage of endoscopic papillectomy for ampullary tumors as an alternative treatment for pancreatoduodenectomy	SCIENTIFIC REPORTS.NATURE PORTFOLIO.2022 Sep 7;12(1):15134	Original Article

計 7 件

21	Masahiro Tsujimae, Atsuhiko Masuda, Takuya Ikegawa, et al.	消化器内科	ASO Visual Abstract: Comprehensive Analysis of Molecular Biological Characteristics of Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Concomitant with Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm.	Annals of surgical oncology.2022 Aug;29(8):4683-4685	Original Article
22	Masahiro Tsujimae, Hideyuki Shiomi, Arata Sakai, et al.	消化器内科	Computed tomography imaging-based predictors of the need for a step-up approach after initial endoscopic ultrasound-guided transmural drainage for pancreatic fluid collections.	Surgical endoscopy.2022.9.19;37(2):1096-1106	Original Article
23	Takeshi Tanaka, Arata Sakai, Masahiro Tsujimae, et al.	消化器内科	Delayed immune-related sclerosing cholangitis after discontinuation of pembrolizumab: A case report.	World journal of gastroenterology.2022.7.28;28(28):3732-3738	Case Report
24	Nobuaki Ikezawa, Takashi Toyonaga, Shinwa Tanaka, et al.	消化器内科	Feasibility and safety of endoscopic submucosal dissection for lesions in proximity to a colonic diverticulum.	Clinical endoscopy.2022.5;55(3):417-425	Original Article
25	Shingo Kanaji, Yoshinori Morita, Takuya Kudo, et al.	消化器内科	Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery Using Open-Window Suturing Technique for Treating Non-ampullary Superficial Duodenal Neoplasms Located on the Pancreatic Side.	Journal of gastrointestinal surgery : official journal of the Society for Surgery of the Alimentary Tract.2022.7.26;26(11):2266-2273	Original Article
26	Noriko Inomata, Atsuhiko Masuda, Kohei Yamakawa, et al.	消化器内科	Lobularity rather than hyperechoic foci/stranding on endoscopic ultrasonography is associated with more severe histological features in chronic pancreatitis.	Journal of gastroenterology and hepatology.2022.10.29;38(1):103-111	Original Article
27	Daisuke Nakagawa, Shohei Komatsu, Yoshihiko Yano, et al.	消化器内科	Outcomes of the Sequential Treatment of Unresectable Hepatocellular Carcinoma Using Lenvatinib.	Anticancer research.2023.2;43(2):911-918	Original Article

計 7 件

28	Shohei Komatsu, Yoshihiko Yano, Masahiro Kido, et al.	消化器内科	Rechallenge With Lenvatinib After Atezolizumab Plus Bevacizumab Treatment for Hepatocellular Carcinoma.	Anticancer research.2022.11;42(11):5479-5486	Original Article
29	Tatsuya Nakai, Hirofumi Abe, Shinwa Tanaka, et al.	消化器内科	Risk-scoring system for predicting challenging cases of peroral endoscopic myotomy.	Digestive endoscopy : official journal of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society.2022.12.26 (オンライン)	Original Article
30	Haruka Miyazaki, Daisuke Watanabe, Yuki Ito, et al.	消化器内科	Side Effects of COVID-19 Vaccines in Patients with Inflammatory Bowel Disease in Japan.	Digestive diseases and sciences.2023 Feb;68(2):564-570	Original Article
31	Hiroshi Takayama, Toshitatsu Takao, Ryo Masumura, et al.	消化器内科	Speech Recognition System Generates Highly Accurate Endoscopic Reports in Clinical Practice.	Internal medicine (Tokyo, Japan).2023 Jan 15;62(2):153-157	Original Article
32	Atsushi Hara, Norio Chihara, Ritsu Akatani, et al.	脳神経内科	Circulating plasmablasts and follicular helper T-cell subsets are associated with antibody-positive autoimmune epilepsy	Frontiers in Immunology.Frontiers Media (SA).2022.12.8;13:1048428	Original Article
33	Shunsuke Watanabe, Kenji Sekiguchi, Yoshikatsu Noda, et al.	脳神経内科	Clinical Utility of Repetitive Nerve Stimulation Test in Differentiating Multifocal Motor Neuropathy From Progressive Muscular Atrophy.	Journal of clinical neuromuscular disease.2022.6.1;23(4):175-182	Original Article
34	Sinan Chen, Masahide Nakamura, Kenji Sekiguchi	脳神経内科	Consecutive and Effective Facial Masking Using Image-Based Bone Sensing for Remote Medicine Education	Applied Sciences.MDPI AG.2022.10;12(20):10507	Original Article

計 7 件

35	Masaya Togo, Riki Matsumoto, Kiyohide Usami, et al.	脳神経内科	Distinct connectivity patterns in human medial parietal cortices: evidence from standardized connectivity map using cortico-cortical evoked potential.	NeuroImage.2022.9.22;263:119639	Original Article
36	Ritsu Akatani, Norio Chihara, Shusuke Koto, et al.	脳神経内科	Efficacy and safety of mycophenolate mofetil for steroid reduction in neuromyelitis optica spectrum disorder: a prospective cohort study	Research Square.2022.12.21 (オンライン)	Others
37	Norio Chihara, Takashi Yamamura	脳神経内科	Immuno-pathogenesis of neuromyelitis optica and emerging therapies.	Seminars in immunopathology.2022 Sep;44(5):599-610	Review
38	Kento Matoba, Norio Chihara, Wataru Satake, et al.	脳神経内科	Long-Surviving Adult Siblings With Joubert Syndrome Harboring a Novel Compound Heterozygous CPLANE1 Variant.	Neurology. Genetics.2022 Sep 26;8(5):e200031	Case Report
39	Shusuke Koto, Norio Chihara, Ritsu Akatani, et al.	脳神経内科	Transcription Factor c-Maf Promotes Immunoregulation of Programmed Cell Death 1-Expressed CD8+ T Cells in Multiple Sclerosis.	Neurology(R) neuroimmunology & neuroinflammation.2022.7;9(4):e1166	Original Article
40	Hiroaki Sekiya, Asato Tsuji, Yuki Hashimoto, et al.	脳神経内科	Discrepancy between distribution of alpha-synuclein oligomers and Lewy-related pathology in Parkinson's disease	Acta Neuropathol Commun..2022.9.6;10(1):133	Original Article
41	Hiroaki Sekiya, Shunsuke Koga, Yoshihisa Otsuka, et al.	脳神経内科	Clinical and pathological characteristics of later onset multiple system atrophy	J Neurol.2022.8;269(8):4310-4321	Original Article

計 7 件

42	Hideki Tokuoka, Rieko Imae, Hitomi Nakashima, et al.	脳神経内科	CDP-ribitol prodrug treatment ameliorates ISPD-deficient muscular dystrophy mouse model	Nat Commun..2022.4.14;13(1):1847	Original Article
43	Hirofumi Iwashashi, Hiroaki Nagashima, Kazuhiro Tanaka, et al.	放射線腫瘍科	2-Hydroxyglutarate magnetic resonance spectroscopy in adult brainstem glioma.	Journal of neurosurgery. 2023 Jan 27;139(2):355-362	Original Article
44	Toshiyuki Takemori, Teruya Kawamoto, Hitomi Hara, et al.	放射線腫瘍科	Clinical Outcome of Patients with Pelvic and Retroperitoneal Bone and Soft Tissue Sarcoma: A Retrospective Multicenter Study in Japan.	Cancers.2022 Jun 20;14(12):3023	Original Article
45	Harada R, Taniguchi-Ikeda M, Nagasaka M, et al.	小児科	Assessment of the upper limb muscles in patients with Fukuyama muscular dystrophy: Noninvasive assessment using visual ultrasound muscle analysis and shear wave elastography	Neuromuscular Disorders.2022.5.17;32(9):754-762	Original Article
46	Yuya Aoto, Takeshi Ninchoji, Hiroshi Kaito, et al.	小児科	Efficacy of combination therapy for childhood complicated focal IgA nephropathy.	Clinical and experimental nephrology.2022.6;26(6):561-570	Original article
47	Kenji Tanimura, Akiko Uchida, Mizuki Uenaka, et al.	小児科	Fetal Ultrasound and Magnetic Resonance Imaging Abnormalities in Congenital Cytomegalovirus Infection Associated with and without Fetal Growth Restriction.	Diagnostics (Basel, Switzerland).2023 Jan 13;13(2):306	Original Article
48	Hiroshi Yamaguchi, Hiroyuki Awano, Tetsushi Yamamoto, et al.	小児科	Serum cardiac troponin I is a candidate biomarker for cardiomyopathy in Duchenne and Becker muscular dystrophies.	Muscle & nerve.2022.5;65(5):521-530	Original Article

計 7 件

49	Kazumi Tomioka, Masahiro Nishiyama, Shoichi Tokumoto, et al.	小児科	Time course of serum cytokine level changes within 72 h after onset in children with acute encephalopathy and febrile seizures.	BMC neurology.2023.1.7;23(1):7	Original Article
50	Satoshi Okazaki, Ryo Kimura, Ikuo Otsuka, et al.	精神科神経科	Epigenetic aging in Williams syndrome.	Journal of child psychology and psychiatry, and allied disciplines.2022 Dec;63(12):1553-1562	Original Article
51	Takaki Tanifuji, Ikuo Otsuka, Satoshi Okazaki, et al.	精神科神経科	Preventive effects of preoperative ramelteon on postoperative delirium in Asian elderly population: A randomized, double-blind, placebo-controlled trial, and a systematic review and meta-analysis.	Asian journal of psychiatry.2022 Dec;78:103282	Original Article
52	Takaki Tanifuji, Kentaro Mouri, Yasuji Yamamoto, et al.	精神科神経科	Psychological Distress among University Staff before and during the COVID-19 Pandemic.	International journal of environmental research and public health.2023.1.26;20(3):2208	Original Article
53	Takaki Tanifuji, Ikuo Otsuka, Atsushi Kimura, et al.	精神科神経科	Successful electroconvulsive therapy for 22q11.2 deletion syndrome with Schizophrenia and Parkinson's disease.	Psychiatry and clinical neurosciences.2022.11;76(11):603-604	Case Report
54	Li S, Otsuka I, Tanifuji T, et al.	精神科神経科	Ribosomal DNA gene copies are increased in blood and brain of Japanese schizophrenia patients.	PLoS One.2023.1.20;18(1):e0280694	Original Article
55	Takemura Y, Tanifuji T, Okazaki S, et al.	精神科神経科	Epigenetic clock analysis in methamphetamine dependence.	Psychiatry Reseach.2022.11;317:114901	Original Article

計 7 件

56	Akihiro Watanabe, Taro Oshikiri, Ryuichiro Sawada, et al.	食道胃腸外科	Actual Sarcopenia Reflects Poor Prognosis in Patients with Esophageal Cancer.	Annals of surgical oncology.2022.6;29(6):3670-3681	Original Article
57	Tomoki Abe, Taro Oshikiri, Hironobu Goto, et al.	食道胃腸外科	Albumin and Derived Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio is a Novel Prognostic Factor for Patients with Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Annals of surgical oncology.2022.10;29(11):6860-6866	Original Article
58	Tomosuke Mukoyama, Shingo Kanaji, Ryuichiro Sawada, et al.	食道胃腸外科	Assessment of risk factors for delayed gastric emptying after distal gastrectomy for gastric cancer.	Scientific reports.2022.9.23;12(1):15903	Original Article
59	Daiki Okamoto, Natsuko Yamauchi, Gosuke Takiguchi, et al.	食道胃腸外科	Autonomous and intercellular chemokine signaling elicited from mesenchymal stem cells regulates migration of undifferentiated gastric cancer cells.	Genes to cells : devoted to molecular & cellular mechanisms.2022.5;27(5):368-375	Original Article
60	Takahiro Koide, Michiyo Koyanagi-Aoi, Keiichiro Uehara, et al.	食道胃腸外科	CDX2-induced intestinal metaplasia in human gastric organoids derived from induced pluripotent stem cells.	iScience.2022.5.20;25(5):1043-14	Original Article
61	Takuya Kudo, Taro Oshikiri, Hironobu Goto, et al.	食道胃腸外科	Comprehensive complication index as a prognostic factor in minimally invasive esophagectomy for esophageal squamous cell carcinoma.	Esophagus : official journal of the Japan Esophageal Society.2022.7;19(3):410-416	Original Article
62	Takashi Kato, Taro Oshikiri, Hironobu Goto, et al.	食道胃腸外科	Impact of the Platelet-to-Lymphocyte Ratio as a Biomarker for Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Anticancer research.2022.5;42(5):2775-2782	Original Article

計 7 件

63	Shingo Kanaji, Yoshinori Morita, Takuya Kudo, et al.	食道胃腸外科	Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery Using Open-Window Suturing Technique for Treating Non-ampullary Superficial Duodenal Neoplasms Located on the Pancreatic Side.	Journal of gastrointestinal surgery : official journal of the Society for Surgery of the Alimentary Tract.2022 Nov;26(11):2266-2273	Original Article
64	Hiroshi Hasegawa, Takeru Matsuda, Kimihiro Yamashita, et al.	食道胃腸外科	Obesity and narrow pelvis prolong the operative time in conventional laparoscopic rectal cancer surgery, but not in a two- team transanal total mesorectal excision approach	ASIAN JOURNAL OF ENDOSCOPIC SURGERY.WILEY.2022.10.4; 16(2):189-196	Original Article
65	Kota Yamada, Naoki Urakawa, Shingo Kanaji, et al.	食道胃腸外科	Preoperative prediction of the pathological stage of advanced gastric cancer by 18F-fluoro-2- deoxyglucose positron emission tomography.	Scientific reports.2022.7.5;12(1):11370	Original Article
66	Taro Oshikiri, Hironobu Goto, Takashi Kato, et al.	食道胃腸外科	Proposed modification of the eighth edition of the AJCC-ypTNM staging system of esophageal squamous cell cancer treated with neoadjuvant chemotherapy: Unification of the AJCC staging system and the Japanese classification.	European journal of surgical oncology : the journal of the European Society of Surgical Oncology and the British Association of Surgical Oncology.2022.8;48(8):1760- 1767	Original Article
67	Hironobu Goto, Taro Oshikiri, Takashi Kato, et al.	食道胃腸外科	Short- and long-term outcomes of thoracoscopic esophagectomy in the prone position for esophageal squamous cell carcinoma in patients with obstructive ventilatory disorder: a propensity score-matched study.	Surgical endoscopy.2022 Dec;36(12):8834-8842	Original Article
68	Shoji Miyako, Takeru Matsuda, Yu-ichiro Koma, et al.	食道胃腸外科	Significance of Wnt/beta- Catenin Signal Activation for Resistance to Neoadjuvant Chemoradiotherapy in Rectal Cancer	BIOMEDICINES.MDPI.2023.1 .10;11(1):174	Original Article
69	Shingo Kanaji, Satoshi Suzuki, Masashi Yamamoto, et al.	食道胃腸外科	Simple and reliable transhiatal reconstruction after laparoscopic proximal gastrectomy with lower esophagectomy for Siewert type II tumors: y- shaped overlap esophagogastric tube reconstruction.	Langenbeck's archives of surgery.2022.8;407(5):1881- 1890	Original Article

計 7 件

70	Takeru Matsuda, Ryuichiro Sawada, Hiroshi Hasegawa, et al.	食道胃腸外科	Standardized Procedure of Transperineal Minimally Invasive Abdominoperineal Resection for Low Rectal Cancer.	Annals of surgical oncology.2022.5;29(5):3065	Original Article
71	Tomoki Abe, Taro Oshikiri, Hironobu Goto, et al.	食道胃腸外科	Thoracic cavity-to-cage ratio is a predictor of technical difficulties in minimally invasive esophagectomy.	Surgery.2022.7;172(1):145-149	Original Article
72	Takeru Matsuda, Ryuichiro Sawada, Hiroshi Hasegawa, et al.	食道胃腸外科	Transanally assisted lateral pelvic lymph node dissection for rectal cancer.	Surgical endoscopy.2023 Feb;37(2):1562-1568	Original Article
73	Hirotohi Soyama, Kaori Kuramitsu, Masahiro Kido, et al.	肝胆膵外科	Assessment of serum and drain fluid bilirubin concentrations in liver transplantation patients.	Transplantation proceedings.2023.1.3;55(1):184-190	Original Article
74	Takeshi Urade, Masahiro Kido, Takumi Fukumoto	肝胆膵外科	Can fluorescence imaging evaluate precise anatomic liver resection accurately?	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences.2022.5;29(5):e44-e45	Others
75	Masayuki Akita, Hiroaki Yanagimoto, Daisuke Tsugawa, et al.	肝胆膵外科	Diagnostic usefulness of SpyGlass in intracholecystic papillary neoplasm with pancreaticobiliary maljunction: a case report and comparison with conventional gallbladder cancer with pancreaticobiliary maljunction.	Clinical journal of gastroenterology.2023.3.3;16(3):476-481	Case Report
76	Hironori Yamashita, Aikaterini Tournas, Masayuki Akita, et al.	肝胆膵外科	Epigenetic upregulation of TET2 is an independent poor prognostic factor for intrahepatic cholangiocarcinoma.	Virchows Archiv : an international journal of pathology.2022.5;480(5):1077-1085	Original Article

計 7 件

77	Hirotochi Soyama, Miki Nishio, Junji Otani, et al.	肝胆膵外科	Hippo-TAZ signaling is the master regulator of the onset of triple-negative basal-like breast cancers.	Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America.2022.7.19;119(29):e2123134119	Original Article
78	Shohei Komatsu, Masahiro Kido, Kaori Kuramitsu, et al.	肝胆膵外科	Impact of Hepatectomy for Advanced Hepatocellular Carcinoma with Major Portal Vein Tumor Thrombus.	Journal of gastrointestinal surgery : official journal of the Society for Surgery of the Alimentary Tract.2022.4;26(4):822-830	Original Article
79	Hidetoshi Gon, Masahiro Kido, Shohei Komatsu, et al.	肝胆膵外科	Laparoscopic Medial-to-Lateral Approach for the Resection of Hepatocellular Carcinoma Located at the Spiegel Lobe of the Liver.	Annals of surgical oncology.2022.10.25;30(1):381-382	Original Article
80	Hidetoshi Gon, Masahiro Kido, Shohei Komatsu, et al.	肝胆膵外科	Safe Laparoscopic Resection of Hepatocellular Carcinoma in the Spiegel Lobe of the Liver Using a Medial-to-Lateral Approach.	Annals of surgical oncology.2022.10.27;30(1):383	Original Article
81	Yu Hashimoto, Shohei Komatsu, Kazuki Terashima, et al.	肝胆膵外科	Space-making particle therapy for unresectable hilar cholangiocarcinoma.	Digestive surgery.2022.4.22;39(2-3):99-108	Original Article
82	Takeshi Urade, Masahiro Kido, Kaori Kuramitsu, et al.	肝胆膵外科	Standardization of laparoscopic anatomic liver resection of segment 2 by the Glissonean approach.	Surgical endoscopy.2022.11;36(11):8600-8606	Original Article
83	Takeshi Urade, Masahiro Kido, Kaori Kuramitsu, et al.	肝胆膵外科	Successful left hepatic trisectionectomy after portal vein embolization for colon cancer liver metastasis in a patient with right-sided ligamentum teres.	Clinical journal of gastroenterology.2022.12;15(6):1130-1135	Case Report

計 7 件

84	Hidetoshi Gon, Daisuke Tsugawa, Hiroaki Yanagimoto, et al.	肝胆膵外科	Successful recanalization of completely obstructed portal vein thrombosis after right hepatectomy for perihilar cholangiocarcinoma by aspiration thrombectomy via the ileocolic mesenteric vein and subsequent systemic anticoagulation with edoxaban.	Clinical journal of gastroenterology.2022.6.29;15(5):981-987	Case Report
85	Hidetoshi Gon, Hisoka Yamane, Toshihiko Yoshida, et al.	肝胆膵外科	Suitability of Laparoscopic Liver Resection of Segment VII: a Retrospective Two-Center Study.	Journal of gastrointestinal surgery : official journal of the Society for Surgery of the Alimentary Tract.2022.6.17;26(11):2274-2281	Original Article
86	Kuramitsu K, Yamanaga S, Osawa R, et al.	肝胆膵外科	Impact of COVID-19 on living donor liver and kidney transplantation programs in Japan in 2020	Transpl Infect Dis.2022.6;24(3):e13845	Original Article
87	Nanno Y, Toyama H	肝胆膵外科	Editorial Comment to "High Expression of Bloom Syndrome Helicase is a Key Factor for Poor Prognosis and Advanced Malignancy in Patients with Pancreatic Cancer: A Retrospective Study"	Ann Surg Oncol.2022.6;39(6):3373-3374	Original Article
88	Shinya Hayashi, Tsukasa Matsubara, Koji Fukuda, et al.	整形外科	A genome-wide association study identifying single nucleotide polymorphisms in the PPF1BP2 gene was predictive for interstitial lung disease in rheumatoid arthritis patients.	Rheumatology advances in practice.2022 Oct 29;6(3):rkac088	Original Article
89	Takehiko Matsushita, Tomoyuki Matsumoto, Daisuke Araki, et al.	整形外科	A phase I/IIa clinical trial of third-generation autologous chondrocyte implantation (IK-01) for focal cartilage injury of the knee.	Asia-Pacific journal of sports medicine, arthroscopy, rehabilitation and technology.2022.4;28:6-12	Original Article
90	Toshiyuki Takemori, Teruya Kawamoto, Hitomi Hara, et al.	整形外科	Clinical Outcome of Patients with Pelvic and Retroperitoneal Bone and Soft Tissue Sarcoma: A Retrospective Multicenter Study in Japan	Cancers.MDPI AG.2022.6.20;14(12):3023	Original Article

計 7 件

91	Yuma Onoi, Takafumi Hiranaka, Yuichi Hida, et al.	整形外科	Second-Look Arthroscopic Findings and Clinical Outcomes after Adipose-Derived Regenerative Cell Injection in Knee Osteoarthritis.	Clinics in orthopedic surgery.2022.9;14(3):377-385	Original Article
92	Masaaki Kohta, Yoshitetsu Oshiro, Yoji Yamaguchi, et al.	脳神経外科	Effects of carotid revascularization on cognitive function and brain functional connectivity in carotid stenosis patients with cognitive impairment: a pilot study.	Journal of neurosurgery.2023.3.10:1-8	Original Article
93	Ayaka Shibano, Hidehito Kimura, Shun Tatehara, et al.	脳神経外科	Efficacy of a High-definition Three-dimensional Exoscope in Simultaneous Transcranial and Endoscopic Endonasal Surgery: A Case Report.	NMC case report journal.2022 Aug 20;9:243-247	Case Report
94	Atsushi Fujita, Masaaki Kohta, Takashi Sasayama, et al.	脳神経外科	Endovascular Treatment of Borden Type III Transverse-sigmoid Sinus Dural Arteriovenous Fistulas: a Single-center 12-year Experience.	Clinical neuroradiology.2023 Mar;33(1):161-169	Original Article
95	Yuichi Fujita, Yoichi Uozumi, Takashi Sasayama	脳神経外科	Intrasellar Chordoma Mimicking Pituitary Macroadenoma with Hyperprolactinemia and Hypopituitarism: Clinical Images with a Surgical Video.	World neurosurgery.2022.11.12;170:158-162	Case Report
96	Sentaro Kusahara, Kyung Woo Kim, Akiko Miki, et al.	眼科	Angiographic findings before and after the onset of brolicizumab-associated retinal vascular occlusion and intraocular inflammation.	American journal of ophthalmology case reports.2022.6;26:101521	Original Article
97	Yasuyuki Sotani, Hisanori Imai, Yukako Iwane, et al.	眼科	INTRAOPERATIVE OPTICAL COHERENCE TOMOGRAPHY FOR REAL-TIME VISUALIZATION OF THE POSITIONAL RELATIONSHIP BETWEEN BUCKLING MATERIAL AND RETINAL BREAKS DURING SCLERAL BUCKLING FOR RHEGMATOGENOUS RETINAL DETACHMENT.	Retina (Philadelphia, Pa.).2022.12.1;42(12):2395-2400	Original Article

計 7 件

98	Sentaro Kusahara, Maya Kishimoto-Kishi, Wataru Matsumiya, et al.	眼科	Short-Term Outcomes of Intravitreal Faricimab Injection for Diabetic Macular Edema.	Medicina (Kaunas, Lithuania).2023 Mar 27;59(4):665	Original Article
99	Kusahara S, Shimura M, Kitano S, et al.	眼科	Treatment of diabetic macular edema in real-world clinical practice: The effect of aging	J Diabetes Investig.2022 Aug;13(8):1339-1346	Original Article
100	Imai H, Tetsumoto A, Yamada H, et al.	眼科	Intraoperative three-dimensional fluorescein angiography-guided pars plana vitrectomy for branch retinal vein occlusion.	Retin Cases Brief Rep. 2022 Nov 1;16(6):802-805	Original Article
101	Sakamoto M, Sawamura H, Aihara M, et al.	眼科	Agreement in the detection of chiasmal and postchiasmal visual field defects between imo binocular random single-eye test and Humphrey monocular test.	Jpn J Ophthalmol..2022 Sep;66(5):413-424	Original Article
102	Mori S, Tanito M, Shoji N, et al.	眼科	Noninferiority of microhook to Trabectome: Trabectome versus ab interno microhook trabeculotomy comparative study (Tram Trac Study).	Ophthalmol Glaucoma..2022 Jul-Aug;5(4):452-461	Original Article
103	Sotani N, Kusahara S, Matsumiya W, et al.	眼科	Outcomes of microhook ab interno trabeculotomy in consecutive 36 eyes with uveitic glaucoma.	J Clin Med..2022 Jun 29;11(13):3768	Original Article
104	Takano F, Mori S, Okuda M, et al.	眼科	Risk of surgical failure and hemorrhagic complications associated with antithrombotic medication in glaucoma surgery.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol..2022 Nov;260(11):3607-3615	Original Article

計 7 件

105	Takano F, Ueda K, Godefrooij DA, et al.	眼科	Incidence of leber hereditary optic neuropathy in 2019 in Japan: a second nationwide questionnaire survey.	Orphanet J Rare Dis..2022 Aug 20;17(1):319	Original Article
106	Okuda M, Mori S, Takano F, et al.	眼科	Association of the prolonged use of anti-glaucoma medications with the surgical failure of ab interno microhook trabeculotomy.	Acta Ophthalmol..2022 Sep;100(6):e1209-e1215	Original Article
107	Hitomi Maki, Hisanori Imai, Hiroko Yamada, et al.	眼科	THE LONG-TERM EFFECT OF CYSTOTOMY WITH FIBRINOGEN CLOT REMOVAL FOR A CYSTOID MACULAR EDEMA SECONDARY TO IDIOPATHIC MACULAR TELANGIECTASIA TYPE 1: A CASE REPORT	Retin Cases Brief Rep..2023.3.1;17(2):101-104	Case Report
108	Kusuhara S, Kishimoto-Kishi M, Matsumiya W, et al.	眼科	Short-Term Outcomes of Intravitreal Faricimab Injection for Diabetic Macular Edema.	Medicina (Kaunas).2023 Mar 27;59(4):665	Original Article
109	Matsumiya W, Kusuhara S, Sotani N, et al.	眼科	Characteristics of Cellular Infiltration into Posterior Vitreous in Eyes with Uveitis on the Classification Basis Assessed Using Optical Coherence Tomography	Clin Ophthalmol. .2023.1.11;17:165-174	Original Article
110	Imai H, Tetsumoto A, Inoue S, et al.	眼科	Intraoperative Three-Dimensional Fluorescein Angiography-Guided Pars Plana Vitrectomy for the Treatment of Proliferative Diabetic Retinopathy: The Maximized Utility of the Digital Assisted Vitrectomy.	Retina. .2023 Feb 1;43(2):359-362	Original Article
111	Kusuhara S.	眼科	The heyday of optical coherence tomography angiography is just around the corner.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. .2023 Feb;261(2):337-338	Others

計 7 件

112	Yuka Ohmachi, Shin Urai, Hironori Bando, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Case report: Late middle-aged features of FAM111A variant, Kenny-Caffey syndrome type 2-suggestive symptoms during a long follow-up.	Frontiers in endocrinology.2023 Jan 4;13:1073173	Case Report
113	Takeshi Fujita, Kazuko Sakai, Natsumi Uehara, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Genetic variants of cancer-associated genes analyzed using next-generation sequencing in small sporadic vestibular schwannomas.	Oncology letters.2023.3;25(3):121	Original Article
114	Natsumi Uehara, Takeshi Fujita, Daisuke Yamashita, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Genetic background in late-onset sensorineural hearing loss patients	J Hum Genet.2022.4;67(4):223-230	Original Article
115	Keisuke Iritani, Masanori Teshima, Hikari Shimoda, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Intraoperative quantitative assessment of parathyroid blood flow during total thyroidectomy using indocyanine green fluorescence imaging - surgical strategies for preserving the function of parathyroid glands	Laryngoscope Investig Otolaryngol.2022.7;18(7):1251-1258	Original Article
116	Hiroataka Shinomiya, Natsumi Uehara, Takeshi Fujita, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Phase I trial of concurrent chemoradiotherapy with docetaxel, cisplatin and 5-fluorouracil (TPF-CRT) for locally advanced squamous cell carcinoma of the external auditory canal	.Eur Arch Otorhinolaryngol.2022.6;279(6):2805-2810	Original Article
117	Hirokazu Komatsu, Tatsuya Furukawa, Keisuke Iritani, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Blowing time ratio and high-resolution manometry to evaluate swallowing function of patients with oral and oropharyngeal cancer	Auris Nasus Larynx.2022.6;49(3):477-483	Original Article
118	Sayaka Katsunuma, Hideru Togashi, Shuhei Kuno, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Hearing loss in mice with disruption of auditory epithelial patterning in the cochlea	Front Cell Dev Biol.2022 Dec 8;10:1073830	Original Article

計 7 件

119	Tatsuhiko Kamikonya, Go Inokuchi, Shun Tatehara, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Surgical treatment of bony nasal airway stenosis in a patient with adult Crouzon's syndrome	J Surg Case Rep.2022 Jul 30;2022(7):rjac358	Case Report
120	Hinata N, Yamaguchi R, Kusuhara Y, et al.	泌尿器科	Hinotori Surgical Robot System, a novel robot-assisted surgical platform: Preclinical and clinical evaluation.	Int J Urol..2022.10;29(10):1213-1220	Original Article
121	Furukawa J, Hinata N, Teisima J, et al.	泌尿器科	Robot-assisted partial nephrectomy with minimum follow-up of 5 years: A multi-center prospective study in Japan.	Int J Urol.2022.9;29(9):1038-1045	Original Article
122	Ueki H, Inoue T, Fujita M, et al.	泌尿器科	The lumbosacral angle is a significant predictor for using a semi-rigid ureteroscopic approach in middle ureteral stones.	Transl Androl Urol.2022.4;11(4):451-459	Original Article
123	Kenji Tanimura, Akiko Uchida, Mizuki Uenaka, et al.	産科婦人科	Fetal Ultrasound and Magnetic Resonance Imaging Abnormalities in Congenital Cytomegalovirus Infection Associated with and without Fetal Growth Restriction. Diagnostics	Diagnostics(Basel).2023.1.13;13(2):306	Original Article
124	Yuko Ono, Masafumi Saito, Kazuho Sakamoto, et al.	救命救急科	C188-9, a specific inhibitor of STAT3 signaling, prevents thermal burn-induced skeletal muscle wasting in mice	Frontiers in Pharmacology.Frontiers Media SA.2022.12.16;13:1031906	Original Article
125	Keishi Nawata, Nobuto Nakanishi, Shigeaki Inoue, et al.	救命救急科	Current practice and barriers in the implementation of ultrasound-based assessment of muscle mass in Japan: A nationwide, web-based cross-sectional study	PLOS ONE.Public Library of Science (PLoS).2022.11.3;17(11):e0276855	Original Article

計 7 件

126	Satoshi Gando, Atsushi Shiraishi, Takeshi Wada, et al.	救命救急科	Effects of tranexamic acid on coagulofibrinolytic markers during the early stage of severe trauma: A propensity score-matched analysis.	Medicine.2022.8.12;101(32):e29711	Original Article
127	Takaki Hirano, Yudai Iwasaki, Yuko Ono, et al.	救命救急科	Long-term incidence and timing of splenic pseudoaneurysm formation after blunt splenic injury: A descriptive study	Annals of Vascular Surgery.Elsevier BV.2023 Jan;88:291-299	Case Report
128	Nobuto Nakanishi, Yuko Ono, Isamu Yamada, et al.	救命救急科	Man with shortness of breath after meal	Journal of the American College of Emergency Physicians Open.Wiley.2022 Jun 21;3(3):e12765	Case Report
129	Ono Y, Nakanishi N, Yamada I, et al.	救命救急科	Oropharyngeal pleomorphic adenoma causing complete airway obstruction and cardiopulmonary arrest.	Oxf Med Case Reports.2022 Aug 18;2022(8):omac083	Case Report
130	Shigeaki Inoue, Nobuto Nakanishi, Jun Sugiyama, et al.	救命救急科	Prevalence and Long-Term Prognosis of Post-Intensive Care Syndrome after Sepsis: A Single-Center Prospective Observational Study	Journal of Clinical Medicine.MDPI AG.2022.9.6;11(18):5257	Original Article
131	Yuko Ono, Eisuke Ueshima, Nobuto Nakanishi, et al.	救命救急科	Right thyrocervical trunk rupture after right internal jugular vein puncture: a case report and systematic review of the literature	JA Clinical Reports.Springer Science and Business Media LLC.2022.9.16;8(1):74	Case Report
132	Nobuto Nakanishi, Yuko Ono, Yusuke Miyazaki, et al.	救命救急科	Sepsis causes neutrophil infiltration in muscle leading to muscle atrophy and weakness in mice	Frontiers in Immunology.Frontiers Media SA.2022.10.31;13:950646	Original Article

計 7 件

133	Takashi Sugimoto, Yuko Ono, Eisuke Ueshima, et al.	救命救急科	Severe left kidney laceration after minor fall in a patient with lumbar spine scoliosis	Acute Medicine & Surgery.Wiley.2023.1;10(1):e8 16	Case Report
134	Naoki Matsunaga, Takuya Okada, Yuko Ono, et al.	救命救急科	Transcatheter arterial embolization for hemothorax caused by spinal fracture without arterial injury: a case report and review of the literature	Journal of Medical Case Reports.Springer Science and Business Media LLC.2022.9.3;16(1):332	Case Report
135	Yasumasa Kakei, Kazunobu Hashikawa, Kaito Uryu, et al.	臨床研究推進センター	Evaluation of the Effects of Covering With Polyglycolic Acid Sheet on Wound Healing: A Pilot Histopathological Study	Cureus.Cureus, Inc..2022.7.24;14(7):e27209	Original Article
136	Kazuhiro Yamamoto, Satoshi Nishiyama, Makoto Kunisada, et al.	臨床研究推進センター	Safety and Efficacy of Bis- Glycerol Ascorbate as Prophylaxis for Hand- Foot Skin Reaction: A Single-Arm, Open-Label Phase I/II Study (DGA Study)	Oncologist.Oxford.2022.5.6;2 7(5):e384-e392	Original Article
137	Yasumasa Kakei , Takeshi Ioroi , Takahiro Ito , et al.	臨床研究推進センター	Efficacy of Ibuprofen Gargle for Postoperative Pain After Mandibular Third Molar Extraction: Protocol for a Phase II, Placebo-Controlled, Double-Blind, Randomized Crossover Trial	JMIR Res Protoc.JMIR Publications.2022 May 16;11(5):e35533	Original Article
138	Ichiro Morioka, Yasumasa Kakei, Takashi Omori, et al.	臨床研究推進センター	Oral Valganciclovir Therapy in Infants Aged ≤ 2 Months with Congenital Cytomegalovirus Disease: A Multicenter, Single- Arm, Open-Label Clinical Trial in Japan	J Clin M.MDPI.2022Jun 21;11(13):3582	Original Article
139	Nanae Yatagai, Takumi Hasegawa, Katsusuke Kyotani, et al.	臨床研究推進センター	Exploratory clinical trial to evaluate the efficacy and safety of carbon dioxide paste in healthy people	Medicine.Wolters Kluwer.2022 Jun 22;101(29):e29511	Original Article

計 7 件

140	Takahiro Koide, Michiyo Koyanagi- Aoi, Keiichiro Uehara, et al.	再生医療臨床応用実現化人 材育成センター	CDX2-induced intestinal metaplasia in human gastric organoids derived from induced pluripotent stem cells	iScience.Elsevier BV.2022.5;25(5):104314	Original Article
141	Kenji Miura, Michiyo Koyanagi- Aoi, Yoshimasa Maniwa, et al.	再生医療臨床応用実現化人 材育成センター	Chorioallantoic membrane assay revealed the role of TIPARP (2,3,7,8- tetrachlorodibenzo-p- dioxin-inducible poly (ADP-ribose) polymerase) in lung adenocarcinoma- induced angiogenesis	Cancer Cell International.Springer Science and Business Media LLC.2023 Feb 25;23(1):34	Original Article
142	Shunsuke Yahiro, Teruya Kawamoto, Shuichi Fujiwara, et al.	再生医療臨床応用実現化人 材育成センター	Identification and characterization of slow- cycling cells in Ewing sarcoma.	International journal of oncology.2022 Nov;61(5):138	Original Article
143	Kohei Yamakawa, Michiyo Koyanagi- Aoi, Keiichiro Uehara, et al.	再生医療臨床応用実現化人 材育成センター	Increased expression of SPRR1A is associated with a poor prognosis in pancreatic ductal adenocarcinoma	PLOS ONE.Public Library of Science (PLoS).2022.5.26;17(5):e0266 620	Original Article
144	Nobuyuki Murai, Michiyo Koyanagi- Aoi, Hiroto Terashi, et al.	再生医療臨床応用実現化人 材育成センター	Re-generation of cytotoxic γ δ T cells with distinctive signatures from human γ δ T-derived iPSCs	Stem Cell Reports.Elsevier BV.2023 Mar 23;18(4):853- 868	Original Article
145	Daichi Enomoto, Kazuhiro Yamamoto, Yuki Matsumoto, et al.	薬剤部	ALBI Grade Is a Predictive Factor of Lenvatinib Treatment Discontinuation due to Adverse Events in Hepatocellular Carcinoma.	Anticancer research.2023.3;43(3):1317- 1323	Original Article
146	Takeshi Kimura, Misa Fujita, Michiko Shimizu, et al.	薬剤部	Effectiveness of pharmacist intervention for deprescribing potentially inappropriate medications: a prospective observational study	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences.Springer Science and Business Media LLC.2022 Apr 5;8(1):12	Original Article

計 7 件

147	Yoko Kunimitsu, Kayoko Morio, Sachi Hirata, et al.	薬剤部	Effects of Proton Pump Inhibitors on Survival Outcomes in Patients with Metastatic or Unresectable Urothelial Carcinoma Treated with Pembrolizumab.	Biological & pharmaceutical bulletin.2022 May;45(5):590-595	Original Article
148	Yumi Kitahiro, Takeshi Ioroi, Yasumasa Kakei, et al.	薬剤部	Efficacy and Long-Term Safety of Ibuprofen Gargle for Oral Lichen Planus: A Study Protocol of Randomized Crossover and Long-Term Extension Trials	Methods and Protocols.MDPI AG.2023.1.10;6(1):7	Others
149	Yasumasa Kakei, Takeshi Ioroi, Takahiro Ito, et al.	薬剤部	Efficacy of Ibuprofen Gargle for Postoperative Pain After Mandibular Third Molar Extraction: Protocol for a Phase II, Placebo-Controlled, Double-Blind, Randomized Crossover Trial.	JMIR research protocols.2022.5.16;11(5):e35533	Others
150	Walaa Y B Mahdy, Kazuhiro Yamamoto, Takahiro Ito, et al.	薬剤部	Physiologically-based pharmacokinetic model to investigate the effect of pregnancy on risperidone and paliperidone pharmacokinetics: Application to a pregnant woman and her neonate.	Clinical and translational science.2023.1.19;16(4):618-630	Original Article
151	Kazuhiro Yamamoto, Satoshi Nishiyama, Makoto Kunisada, et al.	薬剤部	Safety and Efficacy of Bis-Glyceryl Ascorbate as Prophylaxis for Hand-Foot Skin Reaction: A Single-Arm, Open-Label Phase I/II Study (DGA Study).	The oncologist.Oxford University Press (OUP).2022.5.6;27(5):e384-e392	Original Article
152	Kazuhiro Yamamoto, Takeshi Ioroi, Kazuaki Shinomiya, et al.	薬剤部	STAT3 polymorphism associates with mTOR inhibitor-induced interstitial lung disease in patients with renal cell carcinoma	Oncol Res..Cognizant, LLC.2022.5;29(1):11-23	Original Article

計 6 件

総計 152 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	辻前 正弘, 増田 充弘, 児玉 裕三	消化器内科	IgG4関連疾患の診断・治療における胆膵内視鏡の現状と問題点 自己免疫性膵炎診断におけるEUS-FNAの位置づけに関する多機関共同研究	Gastroenterological Endoscopy.(一社)日本消化器内視鏡学会.2022.4;64(Suppl.1):596	Original Article
2	辻前 正弘, 児玉 裕三	消化器内科	(III章)胆・膵 自己免疫性膵炎	消化器内科学レビュー.(株)総合医学社.2022.7;2022-'23:285-290	Review
3	嶋田 侑記, 田中 雄志, 小林 隆, 他	消化器内科	胆管空腸吻合部狭窄に対して直視型EUSを用いて再建腸管からの胆管空腸瘻孔形成術に成功した1例	日本消化器内視鏡学会近畿支部例会プログラム・抄録集, 日本消化器内視鏡学会-近畿支部.2022.6;108回:85	Case Report
4	辻前 正弘, 増田 充弘, 重里 徳子, 他	消化器内科	【胆膵専門外来～エキスパートによる至極の指南書～】慢性疾患の症状コントロール,進展抑制 IgG4関連自己免疫性膵炎	胆と膵.医学図書出版(株).2022.11;43(特別号):1385-1390	Review
5	辻前 正弘, 酒井 新, 増田 充弘, 他	消化器内科	胆膵内視鏡治療の工夫とリスクマネージメント 急性膵炎局所合併症における治療困難例の特徴と早期インターベンションの可能性	日本消化器内視鏡学会近畿支部例会プログラム・抄録集, 日本消化器内視鏡学会-近畿支部.2022.6;108回:50	Review
6	増田 重人, 酒井 新, 小林 隆, 他	消化器内科	「胆膵内視鏡診断の現状と展望」胆道癌の術前診断における経口胆道鏡の役割	日本消化器内視鏡学会近畿支部例会プログラム・抄録集, 日本消化器内視鏡学会-近畿支部.2022.6;108回:64	Review

計 6 件

7	森田 圭紀, 鷹尾 まど佳, 高山 弘志, 他	消化器内科	5Gを用いた消化器内視鏡遠隔診断・治療システムの開発	Gastroenterological Endoscopy.(一社)日本消化器内視鏡学会.2022.10;64(Suppl.2):2148	Review
8	森田 圭紀, 小原英幹, 内多 訓久	消化器内科	Next Endoscopy-消化器内視鏡技術開発のBreak through 5Gを用いた消化器内視鏡遠隔診断・治療システムの開発	Gastroenterological Endoscopy.(一社)日本消化器内視鏡学会.2022.4;64(Suppl.1):688	Review
9	芦崎 太一朗, 千原典夫, 牧野 愛, 他	脳神経内科	エクリズマブ導入により寛解後ステロイド減量に伴い再増悪をきたした難治性重症筋無力症の1例	神経治療学.(一社)日本神経治療学会.2022.10;39(6):S259	Others
10	刀坂 公崇, 十河正弥, 千原 典夫, 他	脳神経内科	終夜ビデオ脳波モニタリングが自己免疫性病態の評価に有用であった焦点てんかんの1例	臨床神経学.(一社)日本神経学会.2022.11;62(11):897	Others
11	田中 智子, 十河正弥, 岡山 公宣, 他	脳神経内科	焦点感覚発作から焦点意識保持強直発作を呈し帯状回由来の発作を疑った抗MOG抗体陽性大脳皮質脳炎の1例	臨床神経学.(一社)日本神経学会.2022.11;62(11):882	Others
12	田中 智子, 刀坂公崇, 十河 正弥, 他	脳神経内科	髄液胎盤型アルカリフォスファターゼ測定が診断に有用だった脊髄再発germinomaの一例	臨床神経学.(一社)日本神経学会.2022.11;62(11):896	Others
13	甲田 一馬, 十河正弥, 岡山 公宣, 他	脳神経内科	非痙攣性てんかん重積状態でのelectrographic seizureは予後良好因子となりうる	てんかん研究.(一社)日本てんかん学会.2022.8;40(2):386	Others

計 7 件

14	千原 典夫	脳神経内科	【免疫性神経疾患(第2版)-基礎・臨床の最新知見-】トピックス・今知りたいこと 免疫性神経疾患におけるshared decision making	日本臨床.(株)日本臨床社.2022.5;80(増刊5 免疫性神経疾患):564-568	Review
15	吉川正章, 吉川正章, 野田佳克, 他	脳神経内科	CIDPおよびMMNにおけるWrist-to-forearm ratioの検討	日本神経学会学術大会プログラム・抄録集.2022;63rd	Others
16	関口 兼司, 渡部俊介, 野田 佳克, 他	脳神経内科	Speckle trackingによる筋萎縮性側索硬化症患者の横隔膜移動量評価に関する研究	超音波医学.(公社)日本超音波医学会.2022.4;49(Suppl.):S773	Others
17	関口兼司, 渡部俊介, 野田佳克, 他	脳神経内科	Speckle trackingによる筋萎縮性側索硬化症患者の横隔膜移動量評価に関する研究	超音波医学 Supplement.2022.4.15;49:S773	Others
18	芦崎 太一郎, 千原典夫, 牧野 愛, 他	脳神経内科	エクシズマブ導入により寛解後ステロイド減量に伴い、再増悪をきたした難治性重症筋無力症の1例	神経治療学.(一社)日本神経治療学会.2022.10;39(6):S259	Others
19	CHEN Sinan, 中村匡秀, 関口兼司	脳神経内科	医学教育のための臨床現場の安全なストーリーミングシステムの開発	電子情報通信学会技術研究報告.2022.5;122(50(SC2022 1-16))(オンライン)	Others
20	関口兼司, 千原典夫, 十河正弥, 他	脳神経内科	院内限定オンライン会議・ワイヤレス音声ガイダンスを用いた入院患者カンファレンス	日本神経学会学術大会プログラム・抄録集.2022.5;63rd(Suppl.): S339-S339	Others

計 7 件

21	森本耕平, 岡山公宣, 関口兼司, 他	脳神経内科	健忘を主症状とする患者の認知症状と側頭葉内側萎縮の推移	日本神経学会学術大会プログラム・抄録集.2022.5;63rd:364	Others
22	的場 健人, 十河正弥, 松本 理器	脳神経内科	高齢者てんかんの治療—Treatment for elderly onset epilepsy—特集 てんかん診療update ; てんかんの治療	日本臨床 = Japanese journal of clinical medicine.2022.12;80(12):1991-1997	Review
23	赤谷律, 千原典夫, 古東秀介, 他	脳神経内科	視神経脊髄炎に対するミコフェノール酸モフェチルによる再発抑制と安全性の評価	日本神経学会学術大会プログラム・抄録集.2022.5;63rd:430	Others
24	刀坂 公崇, 十河正弥, 千原 典夫, 他	脳神経内科	終夜ビデオ脳波モニタリングが自己免疫性病態の評価に有用であった焦点てんかんの1例	臨床神経学.(一社)日本神経学会.2022.11;62(11):897	Others
25	田中 智子, 十河正弥, 岡山 公宣, 他	脳神経内科	焦点感覚発作から焦点意識保持強直発作を呈し帯状回由来の発作を疑った抗MOG抗体陽性大脳皮質脳炎の1例	臨床神経学.(一社)日本神経学会.2022.11;62(11):882	Others
26	末廣大知, 森本耕平, 吉川正章, 他	脳神経内科	身体症状症及び関連症群が強く疑われた例では, 筋電図検査後も診断は不変である	日本神経学会学術大会プログラム・抄録集.2022.5;63rd:479	Others
27	田中 智子, 刀坂公崇, 十河 正弥, 他	脳神経内科	髄液胎盤型アルカリフォスファターゼ測定が診断に有用だった脊髄再発germinomaの一例	臨床神経学.(一社)日本神経学会.2022.11;62(11):896	Others

計 7 件

28	渡部俊介, 関口兼司, 末廣大知, 他	脳神経内科	超音波スペクトルトラッキングを用いた筋萎縮性側索硬化症の呼吸機能評価に関する検討	日本神経学会学術大会プログラム・抄録集.2022.5;63rd:372	Others
29	森本 耕平, 木村正夢嶺, 甲田 一馬, 他	脳神経内科	当院もの忘れ外来患者における脳波異常の検出率	臨床神経生理学.(一社)日本臨床神経生理学会.2022.10;50(5):468	Others
30	甲田 一馬, 十河正弥, 岡山 公宣, 他	脳神経内科	非痙攣性てんかん重積状態でのelectrographic seizure)は予後良好因子となりうる	てんかん研究.(一社)日本てんかん学会.2022.8;40(2):386	Others
31	近藤 淳, 堀之内智子, 山村 智彦, 他	小児科	早期の遺伝学的検査が治療方針選択に有用であったステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の1例	日本小児腎不全学会雑誌.日本小児腎不全学会.2022.8;42:97-100	Case Report
32	裏川 直樹, 原田仁, 金治 新悟, 他	食道胃腸外科	上部消化管手術における縫合不全予防対策の基本	外科.2022.6;84(7):715-718	Article
33	裏川 直樹, 原田仁, 金治 新悟, 他	食道胃腸外科	【縫合不全と戦う】上部消化管手術における縫合不全予防対策の基本	外科.(株)南江堂.2022.6;84(7):715-718	Article
34	齋藤 雅史, 藤浪好寿, 大野 雄康, 他	食道胃腸外科	敗血症後症候群および精神障害の病態形成と回復過程における脳内T細胞の役割	外科と代謝・栄養.日本外科代謝栄養学会.2022.8;56(4):155-159	Review

計 7 件

35	兼田 圭介, 大野 雄康, 宮崎 勇輔, 他	救命救急科	ダビガトラン過量服薬に対 するイダルシズマブの静 脈内投与:血漿中ダビガト ラン濃度と血液凝固能の 関連性	日救急医学会 誌.Wiley.2023.1;34(1):6-11	Case Report
36	松野 陽介, 大野 雄康, 庄司 忠生, 他	救命救急科	ニボルマブ静脈内投与後 の劇症型1型糖尿病によ るケトアシドーシス:Review of case reports.	救急医学.2022.9;46(9):1121- 1127	Case Report
37	齋藤 雅史, 藤浪 好寿, 大野 雄康, 他	救命救急科	敗血症後症候群および精 神障害の病態形成と回復 過程における脳内T細胞 の役割	外科と代謝・栄養.日本外科代 謝栄養学 会.2022.8;56(4):155-159	Review
38	伊藤雄大, 丹田雅 明, 水田直美, 他	薬剤部	抗がん薬調製ロボット導入 前後における薬剤師のが ん薬物療法関連業務の比 較	日病薬誌.2022.6;58(6):627- 632	Original Article

計 4 件

総計 38 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ○ 審査申請手順について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 被験者の保護を最優先し、かつ、大学の社会的信頼を得つつ、臨床研究を適正に推進するために、利益相反が深刻な事態へと発展することの未然防止を目的として、利益相反のマネジメントを適切に実施する。マネジメントの実施のため、臨床研究利益相反マネジメント委員会を設置し、委員会は利益相反に関する重要事項を調査・審議・審査する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 9 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 1 回
・ 研修の主な内容 臨床研究の全体像、治療開発のための研究形態、研究倫理と被験者保護等について e-learning 又は臨床研究推進セミナーを受講する。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

・神戸大学医学部附属病院内科専門研修プログラム

本プログラムは、神戸大学医学部附属病院ならびに兵庫県・大阪府の関連病院・連携施設群の中で、内科専門医を取得することを一つの目標として、内科医としての幅広い臨床能力を育成するためのものである。初期臨床研修を修了した後に、プログラム内の病院群の中で3年間専攻医として研修を修了した時点で、内科専門医受験資格を獲得することを目標とする。

・神戸大学放射線科専門研修プログラム

本プログラムは、神戸大学医学部附属病院放射線科/放射線腫瘍科を専門研修基幹施設として、日本医学放射線学会に認定された 9つの総合修練機関、3つの特殊修練機関、21の修練機関に1つの関連施設を加えた専門研修施設群を統括する専門研修プログラムである。

・神戸大学小児科専門研修プログラム

本プログラムは、日本小児科学会が求める「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となるに必要かつ十分なプログラムであるだけでなく、将来のsubspecialty や個人のキャリアパスにも十分配慮した多様な選択肢を持つプログラムである。

・神戸大学皮膚科研修プログラム

本プログラムは、研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

・神戸大学病院 連携施設 精神科専門医研修プログラム

統合失調症、気分障害をはじめとする児童思春期から老年期にわたる多岐の精神疾患患者の主治医となり、看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、これらの精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法の中核的なカリキュラムに従った研修プログラムに参加する。神戸大精神科研修プログラムの連携施設には、神戸市立中央市民病院をはじめとする9施設の総合病院精神科神経科、県立ひょうごこころの医療センターをはじめとする19施設の公立・私立単科精神科病院が含まれる。専攻医はこれらの医療機関をローテートしながら研鑽を積み、精神科医としての診療能力を向上させつつ、精神科専門医だけでなく精神保健指定医資格をも取得することを目標とする。

・神戸大学外科専門研修プログラム

神戸大学外科学講座の食道胃腸外科学、肝胆膵外科学、心臓血管外科学、呼吸器外科学、小児外科学、乳腺内分泌外科学の 6 分野ならびに外科系講座の災害・救急医学分野が連携し、プログラムの作成と運営を行うことにより、各専攻医のライフプランに応じた効率的できめ細やかな研修を計画することができる。

・神戸大学整形外科専門研修プログラム

本プログラムでは、基幹施設および連携施設全体においてスポーツ医学、関節外科学、脊椎外科学、手外科学、外傷学、骨軟部腫瘍学、小児整形外科、リハビリテーション医学などの専門性の高い整形外科診療を、満遍なく、幅広く経験することが可能である。また、整形外科専門医資格取得後に、サブスペシャリティ領域の研修へ発展させていくための基礎をしっかりと修得することができる。さらに基幹施設である神戸大学医学部附属病院における研修では、専門性の高い臨床研修に加え、神戸大学の特徴である大学院大学という特徴を活かし、将来の大学院進学に備えた臨床・基礎研究のアプローチを学ぶことが可能である。

・神戸大学医学部脳神経外科専門研修プログラム

神戸大学医学部附属病院および連携施設において、それぞれの専門性を有した指導医のもと、症例を担当し臨床実地経験を蓄積する。大学病院では最新鋭の 3 テスラ術中 MRI 装置やハイブリッド手術室を用いた先進的な医療に参加できる。連携施設は兵庫県内にほぼ集約され、基幹施設と連携施設での 2019 年の年間手術総数は 4800 件余りにおよび脳神経外科の全領域をカバーしている。地域の第一線医療、三次救急医療、脳血管障害専門医療、血管内治療、小児神経疾患、脊髄疾患、機能的疾患、脳腫瘍の集約的治療、神経内視鏡手術、定位放射線治療などの特色ある治療を行っている連携施設をローテーションすることができることは、当プログラムの大きな特徴である。大学以外の各連携施設でも十分な指導医と豊富な症例を有しており、診療支援・教育学習機会が充実している。

・神戸大学眼科専門研修プログラム

眼科の 6 領域である、角結膜、緑内障、白内障、網膜硝子体・ぶどう膜、屈折矯正・弱視・斜視、神経眼科・眼窩・眼付属器のそれぞれに専門家が在籍している。専門研修基幹施設には、7つの専門外来を設置しており（緑内障、神経眼科、斜視弱視・小児眼科、網膜硝子体、ぶどう膜、角膜・コンタクト、眼窩）、専門研修連携施設にも、一般臨床から幅広い領域に対応できる指導医を派遣している。これらから、基幹施設、連携施設での研修を通じて、どの分野においても偏りなく眼科の最新医療を学べる体制が整っている。

・神戸大学耳鼻咽喉科専門研修プログラム

耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師としての人格を涵養し、耳、鼻・副鼻腔、口腔・咽頭・喉頭、頭頸部の病態や疾患に対する診断と治療に関する豊富な知識と技術、経験を有し、国民に良質で安全な標準的医療を提供するとともに、更なる医療の発展にも寄与することができる耳鼻咽喉科専門医の育成を目的としている。

・神戸大学泌尿器科専門医研修プログラム

神戸大学医学部附属病院を基幹施設とする27の連携施設から構成される。本研修施設群では、小児泌尿器科、尿路生殖器腫瘍、排尿障害、尿路結石症、性機能障害、生殖医療、尿路感染症、女性泌尿器科、腎移植、腹腔鏡手術、小切開手術などの領域を専門的に実施する連携病院を擁し、また、ロボット支援手術を実施する病院が15施設に及ぶ。以上のプログラムの特性から、一般的な泌尿器科診療に加えて量的にも質的にも多彩な専門的診療を研修する機会が得られる。

・神戸大学産科婦人科研修プログラム

本専門研修プログラムでは、医師としてまた産婦人科医としての基本的な診療技術、幅広い知識を習得し、婦人科腫瘍、周産期、女性のヘルスケア、生殖医療、内視鏡手術、さらに医療過疎地における地域医療に特化した連携施設での研修により、幅広く、より高度な知識・技能を持つことが可能となる。研修終了後は、兵庫県下のみならず地域医療の担い手として、県外も含めた希望する施設で就業することが出来る。さらに専門研修施設群における専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門医の研修を開始する準備も整っているため、スムーズに個々のスキルアップを図ることが出来る。

・神戸大学形成外科研修プログラム

形成外科は臨床医学の一端を担うものであり、先天性あるいは後天性に生じた変形や機能障害に対して外科的手技を駆使することにより、形態および機能を回復させ患者の Quality of Life の向上に貢献する外科系専門分野である。形成外科医制度は、形成外科医として有すべき診断能力の水準と認定のプロセスを明示するものであり、専門研修プログラムは医師として必要な基本的診断能力（コアコンピテンシー）と形成外科領域の専門的能力、社会性、倫理性を備えた形成外科医を育成することを目的としている。

・神戸大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

本プログラムでは、4年間のうち最短で1年間は責任基幹施設である神戸大学医学部附属病院で研修を行うこととし、プログラムに所属する全ての専攻医が、原則として研修期間4年間のうちの2年間で専門研修基幹施設および連携施設において、専門研修に必要なとされる特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築している。残り2年間の研修は、すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、それぞれの専攻医のキャリアプランに合わせた調整が可能である。また、専門研修基幹施設（神戸大学医学部附属病院）での研修には、集中治療およびペインクリニック領域での研修も含まれる。

・神戸大学医学部附属病院 救急科専門研修プログラム

本プログラムでは、手術手技などの救急科医としての専門的能力は当然として、大学ならではの基礎から臨床、日常診療から最先端の医療まで臓器・分野を越えた幅広い領域の知識や技術を学ぶ事が出来る。災害救急医学分野の協力を得て、必修である救命・救急医療の充実を計っている。さらに3年間の専門研修プログラム終了後も様々な診療特色を持つ関連病院への出向や大学院博士課程へ進学、国内外への留学など、幅広い選択肢の中から、自身の選択した専門分野（サブスペシャリティ）で救急科医師としての研鑽を積むことが可能である。

・神戸大学医学部附属病院病理専門研修プログラム

大学病院をも含む数多い関連施設群を活用し、多分野にわたる基本的な病理診断学の習得は勿論、個人の興味に応じた医療最前線の病理学の両者をバランス良く学ぶことを目指す。各専門分野にわたる豊富な指導教官による充実した指導と多彩な症例を経験することができる。各分野に精通した専門家が多数在籍し、general pathology を十分に習得した上で、各自のsubspecialty を持った理想的な病理医を育成する。各専攻医の希望にきめ細かく対応。基礎病理学分野群、あるいは他大学の基礎講座とも連携し、診断病理医として有用な分子病理学のスキル習得も可能である。

・神戸大学リハビリテーション科専門研修プログラム

神戸大学リハビリテーション科研修プログラム(PG)は、患者から信頼され、まず、標準的な医療を提供できるリハビリテーション科専門医となるために、急性期、回復期、生活期のリハビリテーション医療に精通し、脳卒中、運動器、切断、小児、内部障害、そしてがんのリハビリテーションまで幅広く知識と経験を得られるよう、適切な教育を行い、十分な知識と経験を身に着けるため、神戸、播磨地区の病院群での研修を中心に構成されたプログラムになっている。本研修プログラムは、現在まで神戸大学医学部附属病院とその関連病院の先輩方が築き上げた素晴らしいリハビリテーション研修施設を横断して研修することで、日本をリードするリハビリテーション科専門医となるための基礎を身に着けてもらえると考えている。

・神戸大学臨床検査専門研修プログラム

臨床検査はEvidence Based Medicineにおける客観的な指標として、診療にかかせないものである。臨床検査の全般において、その品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを通して良質で安全な患者診療に貢献する専門医が臨床検査専門医である。本研修プログラムでは、臨床検査医学総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝子関連検査学、臨床生理学の基本7科目の研修を行う。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	151人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
児玉 裕三	内科	教授	29年	
村上 卓道	放射線科	教授	37年	
野津 寛大	小児科	教授	26年	
久保 亮治	皮膚科	教授	29年	
菱本 明豊	精神科神経科	教授	27年	
岡田 健次	外科	教授	35年	
黒田 良祐	整形外科	教授	33年	
篠山 隆司	脳神経外科	教授	29年	
中村 誠	眼科	教授	34年	
丹生 健一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	37年	
藤澤 正人	泌尿器科	教授	39年	

寺井 義人	産科婦人科	特命教授	31年
寺師 浩人	形成外科	教授	37年
溝渕 知司	麻酔科	教授	38年
小谷 穰治	救命救急科	教授	36年
伊藤 智雄	病理診断科	教授	31年
酒井 良忠	リハビリテーション科	特命教授	27年
三枝 淳	臨床検査部門	部長	27年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）	
1. 研修の主な内容	薬剤師を対象に、病棟薬剤業務についての知識・技能を習得するための講義・演習形式のスキルアップセミナーおよび症例検討会を実施した。
研修の期間・実施回数	2022/4/1～2023/3/31 計43回
研修の参加人数	各6～47名、延874名
2. 研修の主な内容	新人看護師を対象に、「薬剤の基礎知識」をテーマとする講義（動画）を実施した。
研修の期間・実施回数	2022/4/9～2022/4/10、1回40分の動画講義
研修の参加人数	96名
3. 研修の主な内容	病棟看護師を対象に、「デスマプレシンスプレーの使用方法について」、「ESHAP療法について」、「便秘薬・睡眠薬など病棟で使用する薬剤について」、「レミフェンタニルについて」をテーマに講義を行った。
研修の期間・実施回数	2022/6/1、2022/10/14、2022/11/25、2022/12/22 計4回
研修の参加人数	延80名
4. 研修の主な内容	医師事務作業補助者を対象に、「薬剤部業務の解説」をテーマに講義を行った。
研修の期間・実施回数	2022/7/13 計1回60分の講義（対面とWEB）
研修の参加人数	19名
5. 研修の主な内容	新人看護師を対象に、「薬剤の基礎知識」をテーマとする講義（動画）を実施した。
研修の期間・実施回数	2022/4/9-10 1回60分の講義動画 計96回（1名につき1回）
研修の参加人数	96名
6. 研修の主な内容	病棟看護師を対象に、以下の内容をテーマに講義を行った。 ・小児科病棟でよく使用される薬剤について ・鎮痛薬／鎮静薬について ・インスリンの使用について ・高濃度注射用カリウム製剤の安全管理について
研修の期間・実施回数	2022/4/7 1回150分の講義 計96回（1名につき1回）
研修の参加人数	96名
7. 研修の主な内容	看護部全職員を対象に「採用者オリエンテーション、新人看護職員研修、ラダーⅡ、ラダーⅢ、ラダーⅣ、ラダーⅤ、教育指導者養成コース」等の研修会を実施した。
研修の期間・実施回数	105回・210時間（対面170時間、オンデマンド配信40時間）
研修の参加人数	延6486名
8. 研修の主な内容	「末梢静脈カテーテル留置技術トレーニングプログラム」に基づき新採用者を対象に講義演習、実施試験（①e-learningで講義視聴②確認テスト、③シミュレーターを用いた演習、④患者を対象とした実施確認）を行った。
研修の期間・実施回数	①②はWEB上で常時受講可能、③個別に0.5日
研修の参加人数	延789名

9. 研修の主な内容	診療放射線技師を対象に、放射線関連学会での演題に対する予演会および学会参加で得た知見等に対する報告会を実施した。
研修の期間・実施回数	①日本放射線技術学会総会学術大会 報告会 3回 ②日本IVR学会 報告会 1回 ③欧州放射線学会 報告会 1回 ④日本放射線技師会総会学術大会 予演会 3回
研修の参加人数	①28名・33名・9名 ②28名 ③24名 ④予演会28名・27名・32名
10. 研修の主な内容	診療放射線技師を対象に、造影剤使用時の有害事象とその対応について研修会を実施した。
研修の期間・実施回数	1回
研修の参加人数	32名
11. 研修の主な内容	医療技術部新規採用職員を対象に以下の研修を実施した ①医療技術部職員が所属する各職場の見学 ②接遇について ③医療技術職員の医療安全について ④感染対策について ⑤患者さんの安全な移乗方法について
研修の期間・実施回数	年1回
研修の参加人数	各18名
12. 研修の主な内容	リハビリテーション部の技士等を対象に以下の研修会を実施した ①FIM（日常生活の介助量）の評価研修会について ②急変時のシミュレーション（小児患者対象）
研修の期間・実施回数	年1回
研修の参加人数	①23名 ②34名
13. 研修の主な内容	病理部の新規採用職員を対象に、以下の研修を実施した。 ・患者情報の守秘義務 ・倫理 ・病院オリエンテーション ・ポケットマニュアルの説明 ・接遇 ・感染予防 ・品質マネジメントシステム
研修の期間・実施回数	2022/4/1～1週間
研修の参加人数	1名
14. 研修の主な内容	病理部の職員を対象に、以下の研修を実施 ・有害インシデントの影響を回避または抑制することを含む安全衛生 ・避難訓練（机上訓練）
研修の期間・実施回数	年2回
研修の参加人数	全員
15. 研修の主な内容	病理部の職員を対象に、「ISO 15189関連の研修会」を実施した。
研修の期間・実施回数	1時間・1回
研修の参加人数	全員
16. 研修の主な内容	病理部の受験対象職員に、「2級臨床検査技師（病理学）模擬試験」の研修を実施した。

研修の期間・実施回数	4時間・1回
研修の参加人数	対象者
17. 研修の主な内容	検査部、輸血・細胞治療部職員対象に、以下の研修会を実施した。 ①急変時シミュレーション ②タスクシフト/シェアの推進について、R-CPC ③HDL機能評価の意義 ④バイオリソースセンターの紹介 ⑤凝固・線溶を紐解く～FDP・Dダイマー～ ⑥ISO 15189：2022（第4版）変更点概要セミナー ⑦ISO15189改定およびフレキシブルスコープ認定について ⑧超緊急時輸血の流れに関するシミュレーション
研修の期間・実施回数	8回
研修の参加人数	①50名 ②43名 ③42名 ④50名 ⑤48名 ⑥10名 ⑦44名 ⑧35名
18. 研修の主な内容	医療従事者を対象に、「NEST勉強会」として栄養管理についての知識を習得するための講義を実施した。
研修の期間・実施回数	2022/4/1～2023/3/31 計4回
研修の参加人数	各10～20名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）	
1. 研修の主な内容	薬剤師を対象に、薬・業務に関するインシデントや対策、薬・治療に関する知識、病棟業務についての標準化・効率化やインシデント対策の共有を図るために薬局会、ミーティングを実施した。
研修の期間・実施回数	2022/4/1～2023/3/31 計24回
研修の参加人数	各28～74名、延1178名
2. 研修の主な内容	師長、副師長を対象とした研修会を開催した。
研修の期間・実施回数	7時間 7回（WEBミーティング）
研修の参加人数	延159名
3. 研修の主な内容	病理部の細胞検査士を対象に、以下の研修を実施した。 ①細胞診症例検討会 ②口腔細胞診ワークショップ ③細胞診供覧会（陽性チェック）
研修の期間・実施回数	①1時間・5回 ②1時間・1回 ③0.5時間・週5回
研修の参加人数	①②細胞検査士全員、③細胞診業務担当者
4. 研修の主な内容	病理部の業務担当職員を対象に、「機器導入時使用説明会」を実施した。
研修の期間・実施回数	1～2時間、3回
研修の参加人数	機器使用者全員
5. 研修の主な内容	病理部の業務開始職員を対象に、以下の研修を実施した。 ①FISH業務 ②免疫染色業務 ③組織標本作製業務 ④迅速標本作製業務 ⑤切出し補助業務
研修の期間・実施回数	1～2時間、1～3回
研修の参加人数	①2名 ②1名 ③1名 ④1名 ⑤1名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

1.	研修の主な内容	日本医療薬学会地域薬学ケアの研修生を対象に、部内薬剤師向けに開催したスキルアップセミナーおよび症例検討会、院内で開催された抗悪性腫瘍剤審査委員会やチーム医療・診療科のカンファレンスを公開した。また、対応に苦慮する症例に対する指導を行い、研修生による症例検討会を開催した。
	研修の期間・実施回数	2022/4/1～2023/3/31 計43回(スキルアップセミナー、症例検討会)、20回(抗悪性腫瘍剤審査委員会)、月1回(症例に対する指導)
	研修の参加人数	4名
2.	研修の主な内容	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 高齢者医療コースの研修生 看護師2名に対して、高齢者の「薬学概論」「ポリファーマシー」「糖尿病治療」「栄養管理」「がん薬物療法」「アドバンス・ケア・プランニング」について講義を行った。
	研修の期間・実施回数	2022/6/20～7/15 1回1.5時間、計6回
	研修の参加人数	2名
3.	研修の主な内容	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 栄養医療コース研修生に対して、研修期間中に「静脈栄養」「簡易懸濁」について講義を行った。
	研修の期間・実施回数	2022/12/18、40分、1回
	研修の参加人数	約18名
4.	研修の主な内容	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 災害・救急医療コース研修生に対して、研修期間中に「災害時の薬事」について講義を行った。
	研修の期間・実施回数	2022/10/12、90分、1回
	研修の参加人数	4名
5.	研修の主な内容	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 感染症医療コース研修生に対して、「抗菌薬のPK/PD」「抗菌薬のTDM」「BigGun」「感染対策」「消毒薬」について講義を行った。
	研修の期間・実施回数	2023/6/22 120分、1回(薬剤部対応分)
	研修の参加人数	3名
6.	研修の主な内容	日本病院薬剤師会妊婦・授乳婦専門薬剤師養成研修の研修生に対して、研修期間中に、妊婦・授乳婦に対するカウンセリング技術や情報評価スキルの確認トレーニング等の実技研修を行った。
	研修の期間・実施回数	2022/11/7～11、2022/11/14～18、2023/1/30～2/3、2023/2/6～10 1人5日、計20日
	研修の参加人数	4名
7.	研修の主な内容	日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師制度の研修生に対して、研修期間中に臨床研究への参画に関する指導と「薬物療法の実践」「チーム医療への参画」等の研修の進捗管理を行った。
	研修の期間・実施回数	2022/4/1～2023/3/31 月1回程度
	研修の参加人数	1名
8.	研修の主な内容	日本医療薬学会がん専門薬剤師制度の研修生に対して、研修期間中に「薬物療法の実践」「チーム医療への参画」等の研修の進捗管理を行った。
	研修の期間・実施回数	2022/4/1～2023/3/31 月1回程度
	研修の参加人数	1名

9. 研修の主な内容	日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師制度の研修生に対して、研修期間中に「抗がん薬療法・支持療法の患者への指導・副作用モニタリング」、「チーム医療への参画」、「カンファレンスへの参加」等の実技研修を行った。
研修の期間・実施回数	2022/11/1～2023/2/31のうち 計30日
研修の参加人数	1名
10. 研修の主な内容	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師制度の研修生に対して、研修期間中に「抗がん薬調製」、「抗がん薬療法・支持療法の患者（入院・外来）への指導及び副作用モニタリング」、「抗がん薬レジメン管理」、「チーム医療への参画」等の実技研修を行った。
研修の期間・実施回数	2023/1/30～2023/3/24 計38日
研修の参加人数	1名
11. 研修の主な内容	地域の看護職者に対して院内研修を公開して受け入れた。
研修の期間・実施回数	9時間、6回
研修の参加人数	延83名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 眞庭 謙昌
管理担当者氏名	薬剤部長 矢野 育子 総務課長 石原 卓也 管理課長 輪野 透 学務課長 勝呂 新 研究支援課長 河村 敏幸 医事課長 高安 健一 医療支援課長 中出 泰介

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医療支援課	
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療録センター	
		看護記録	診療録センター	
		検査所見記録	診療録センター	
		エックス線写真	各診療科	
		紹介状	診療録センター	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療録センター	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	カルテ室	
			入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部
	掲げる事項	規則第一條の十一第一項に	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況			医療支援課	
		パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	
	第一号	医薬品安全管理責任者の配置状況	
	第二号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	
	第三号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
	第四号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
	第五号	医療機器安全管理責任者の配置状況	
	第六号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	
	第七号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
第八号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療支援課・薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療支援課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療支援課
		医療安全管理部門の設置状況	医療支援課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	大学 内部統制室・神戸海都法律事務所(外部窓口)
		職員研修の実施状況	医療支援課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課
管理者が有する権限に関する状況	総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 眞庭 謙昌
閲覧担当者氏名	薬剤部長 矢野 育子 総務課長 石原 卓也 管理課長 輪野 透 学務課長 勝呂 新 研究支援課長 河村 敏幸 医事課長 高安 健一 医療支援課長 中出 泰介
閲覧の求めに応じる場所	・医学部管理棟(総務課)
閲覧の手続の概要 閲覧日の2週間前までに所定の申込書により総務課に申込を行い、応接室にて閲覧する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理に関する基本的な考え方 2. 医療安全管理委員会その他の病院の組織に関する基本的事項 3. 医療安全教育のための職員研修に関する基本方針 4. 医療安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者等からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） <p>本院における医療に係る安全管理体制の確保及び推進を目的に、神戸大学医学部附属病院医療安全管理委員会を設置し、原則として月1回開催し、次の事項について審議等を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析 2. 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員等への周知 3. 前号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直し 4. インシデント、アクシデント等の報告（全死亡例及び一定基準以上の有害事象等の報告）の実施の状況の確認、必要な検証及び確認結果の報告 5. 前号に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導 6. その他医療安全管理に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <p>病院職員（医員、研修医、専攻医、大学院生及び事務を含む全職種）を対象に、医療安全に関する「職員必修講習」を年2回実施している。</p> <p>【1回目】令和4年6月1日～6月21日開催 2022年度医療安全に関する職員必修講習Ⅰ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「基本を知って、医療事故を減らそう」 ②「新型コロナウイルス流行3年目の感染対策（1）」 ③「耐性菌の出現と伝播の防止を目的とした抗菌薬と消毒薬の適正使用について」 ④「医薬品安全使用における注意点について」 <p>【2回目】令和4年12月1日～12月21日開催 2022年度医療安全に関する職員必修講習Ⅱ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「医療の基本プロセス インフォームド・コンセント」 ②「コロナ対応だけではない院内感染対策の基本」 ③「抗菌薬の適正使用と手指消毒の重要性」 	

- ④「医療機器の安全使用について」
- ⑤「虐待対応の流れとカルテ使用時の注意点」

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - (1) 院内で発生したインシデント事案と改善策の周知のため、各部署に配置した「質・安全マネジャー」を対象にした連絡会議を開催し、医療安全への認識を高めるよう努めている。なお、質・安全マネジャーは当該講座を必修としている。(令和4年度開催実績：連絡会議6回)
 - (2) 有害事象が発生した場合は、直ちに当該部署の質・安全マネジャーから医療の質・安全管理部へ連絡するとともにインシデント報告システム(KOSMIC)により報告することを義務付けている。医療の質・安全管理部は報告内容に基づいて、部署の質・安全マネジャーと協働して当該事象の検証を行なう。重大な結果が生じた事象は直ちに病院長に報告するとともに、緊急問題検討会議を召集し、検証及び対応について審議する。
 - (3) 医療安全、感染制御、薬剤及び医療機器に関する重要事項の周知は、広報紙「くすのきスクエア」にまとめて年6回発行し、日本医療機能評価機構発行の安全ニュースと併せて配付している。また、各部署内での回覧状況が確認できるよう専用ファイルで管理し、押印又はサインすることとしている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： ・ 院内感染対策に関する基本的考え方 ・ 院内感染対策のための委員会・組織 ・ 院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針 ・ 院内感染発生時の対応（報告体制含む）に関する基本方針 ・ 患者・家族等に対する指導およびインフォームドコンセントと当該指針の閲覧に関する基本方針 ・ その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針（サーベイランス・院内ラウンド 抗菌薬適正使用支援・特定抗菌薬届出の監視・コンサルテーション・職業感染対策・ マニュアルの改訂・院内環境の整備） ・ 感染制御の地域連携 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： MRSA及び耐性菌の検出報告、アウトブレイク疑い対応、院内ラウンド報告、 医療関連サーベイランス、感染管理リンクナース会報告、 職業感染予防対策（新型コロナウイルス対策、結核曝露対策、ワクチン接種、 血液・体液曝露予防など）、 院内感染予防マニュアルの改訂、院内研修の計画・実施報告 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 13 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： ・ 新規採用者全員対象に、院内感染対策の基本と針刺し予防の講義（e-ラーニング） ・ 新規採用研修医オリエンテーション ①感染対策の基本 ②グラム染色 ・ 新入看護職員研修技術トレーニング（感染防止：感染対策の基本、安全器材等） ・ 全職種に対して、職員必修講習会として年2回実施（感染対策、抗菌薬）。医療安全部門と 共に、時期に応じて院内感染対策上重要なポイントおよびトピックスや実例について講演 ・ 医療技術部新入職員オリエンテーション（PPE、手指衛生、N95マスクフィットテスト） ・ 外部委託業者講習会（標準予防策、針刺し防止、感染対策上の注意点）を職種別に講義 （DVD配布×6職種） <p>（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症に関する各種動画（いつでも閲覧可）、個人防護具着脱講習、 N95マスク装着指導（フィットテスト含む）等も必要に応じて随時実施 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） 感染症法に決められている届け出が必要な感染症の報告体制、および感染対策上重要な感染症 に対する感染制御部を中心とした監視体制。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策実施状況を確認するために、オンタイムおよび随時(1-2回/週)に院内ラウンドを 実施し、必要時指導。 ・ 抗菌薬使用状況を継続的に調査し、毎週開催の抗菌薬適正使用プロジェクトで抗菌薬の 使用法をメール審議し、随時介入指導。 ・ 現場医療従事者からのコンサルテーションをうけて、随時対応。 ・ 侵襲処置・医療器具関連感染、血液・体液曝露のサーベイランスを実施。 ・ 職員に対してB型肝炎、4種ウイルス（麻疹、風疹、水痘、ムンプス）のワクチン歴や抗体価の 調査およびワクチンの推奨を行い、データ管理を実施。 ・ 新興・再興感染症の対応を協議し、院内全体に感染防止対策を周知徹底。 ・ 改築、改修時の院内のファシリティーマネージメントの実施。 ・ 医学科学生（BSL前）及び保健学科学生に、感染防止対策の講義と手指衛生や個人防護具の 使用方法について演習（オンライン含む）を実施。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年19回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 例年は、新規採用職員を対象としたオリエンテーションで医療安全を含めた医薬品に係る講習を実施しているが、今回は新型コロナ感染拡大防止のため講習の代替としてweb講演を行った。内容は、処方箋の記載方法、医薬品の取り扱い方法、院内の薬剤に関する運用方法、薬剤関連の重大インシデント等である。</p> <p>(2) 全職員を対象とした講習会を6月にかけて実施したが、新型コロナ感染拡大防止のためe-learning形式であった。テーマは「医薬品安全使用における注意点について」である。習熟度確認のため、講習会終了後はマークシート方式による確認試験を実施した。</p> <p>(3) 薬剤部では部内で発生したインシデント事例等を情報共有する「薬局会」を月1回開催している。参加者には会終了後にアンケートを記載させており、薬剤部長、副薬剤部長、薬剤主任等はそれを回覧し業務改善に繋げている。</p> <p>(4) 例年通り、新人看護師を対象として「薬剤の基礎知識」をテーマとする講習会を実施した。また、病棟看護師を対象に「デスマプレシンスプレーの使用方法について」「ESHAP療法について」「便秘薬・睡眠薬など病棟で使用する薬剤について」「レミフェンタニルについて」等をテーマとした短時間講習を実施した。</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>「医薬品の安全使用のための業務手順書」は必要に応じて改訂しているが、少なくとも年1回は改訂を行い医薬品安全管理委員会で審議し、医療安全管理委員会で承認を得ている。また、薬剤部職員はこの手順書に基づき作成した「医薬品安全管理点検表」を用いて薬剤部以外に保管する医薬品等の管理状況を確認している。管理状況に不備がある場合は管轄看護師長等に連絡し改善を依頼する。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)：</p> <p>未承認新規医薬品は4事例について承認した。具体的には①形成外科「クリスタルバイオレットを用いた感染・壊死組織の染色」、②感染症内科「新生児へのHIV母子感染予防目的の未承認抗HIV薬の投与」、③感染症内科「妊婦へのHIV母子感染予防目的のジドブジン点滴製剤の投与」、④感染症内科「HIV患者におけるトキソプラズマ症へのピリメサミン・スルファジアジンの投与」である。</p> <p>適応外使用については5事例承認した。具体的には①産科婦人科「天然型プロゲステロン腔内投与による切迫流早産治療」、②放射線腫瘍科「放射線増感剤オキシドールポーラス法(KORTUC I)」、③放射線腫瘍科「オキシドール含有ヒアルロン酸注入による増感放射線治療(KORTUC II)」、④膠原病リウマチ内科「TAFRO症候群に対するミコフェノール酸モフェチル併用療法」、⑤小児科「同種造血幹細胞移植時のサイトメガロウイルス感染症ハイリスク小児・AYA世代患者に対するレテルモビル予防内服について」の5事例である。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 薬剤部の薬品情報室はPMDAナビや各種ホームページの閲覧によりイエローレター、ブルーレターを含む医薬品の安全使用のために必要な情報収集を行っており、得られた情報は速やかに院内周知している。また、イエローレター、ブルーレターについては当該薬剤の使用患者リストを病棟薬剤師に提供し、副作用発現状況等を確認すると共に、主治医等に情報提供を行っている。</p> <p>(2) 2016年9月より、薬剤部の主任質・安全マネージャーと医薬品安全管理者は安全使用の確認を目的として使用状況の確認を行う医薬品を選定し、薬品情報室に処方状況のデータ収集作業の指示を出している。その情報は必要に応じて院内発行紙の「くすのきスクエア」に掲載して院内周知を図ることとし、必要に応じて、医療の質・安全管理部が院内ラウンドを行う際に周知状況の確認を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年162回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>令和4年度は全体研修会13回、安全使用研修59回、新規導入等研修58回、その他放射線部研修32回</p> <p>(1) 職員必修講習</p> <p> a. 除細動器・AEDについて</p> <p>(2) 医療機器安全に関する必修講習（前・後期）</p> <p> a. 人工呼吸器について</p> <p> b. 血液浄化装置について</p> <p> c. 人工心肺装置・補助循環装置について</p> <p> d. 閉鎖式保育器について</p> <p>(3) その他の特定保守管理装置の講習</p> <p> a. 診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置について</p> <p>(4) 新入職員等のための研修</p> <p> a. 輸液・シリンジポンプ</p> <p> b. 人工呼吸器</p> <p> c. 血液浄化装置</p> <p>(5) 新規導入機器・機器配置変更等のための研修会</p> <p> a. 人工呼吸器</p> <p> b. 補助循環装置</p> <p> c. 血液浄化装置</p> <p> d. その他</p> <p>(6) 医療機器安全使用・適正使用に関する研修等</p> <p> a. 人工呼吸器</p> <p> b. 血液浄化装置</p> <p> c. その他</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>(1) 人工心肺装置・補助循環装置（IABP、経皮的補助循環装置、体外設置型補助人工心臓装置）、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、CTエックス線装置、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、磁気共鳴画像診断装置等の保守点検を実施</p> <p>(2) 補助循環装置、人工呼吸器、生体情報モニター、除細動装置等の日常点検を実施</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし</p>	

・その他の改善のための方策の主な内容：

- (1) 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施
- (2) 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の適切な実施
- (3) 医療機器の安全使用のための情報の収集（不具合情報、安全情報、健康被害等情報）
 - a. 収集した情報は医療機器安全管理委員会に報告している。
 - b. 医療機器安全管理委員会から関連部署へ通知し周知を図っている。
 - c. 医療安全管理委員会へ不具合情報ならびにその対応について報告している。
- (4) 未承認等の医療機器を用いた医療の提供
- (5) 医療機器の安全確保を目的とした改善方策の実施
- (6) 医療機器の添付文書及び取扱説明書の管理

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>副病院長（リスクマネジメント担当）を医療安全管理責任者に選任し、医療の質・安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（4名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医療の質・安全管理部と連携し、令和4年度は年6回発行した「くすのきスクエア」（医療安全、感染制御、薬剤情報紙）により周知徹底を図った。また、薬品情報室ニュース（採用薬・副作用・安全性情報）を適宜発信し周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認薬についてはすべて審査対象としている。適応外使用については、医薬品安全管理委員会にて「医薬品に関する未承認、禁忌、適応外使用に関する相談フォーム」を作成し、適応外使用のうち高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等実施審査委員会で審査を要する範囲を定めて運用している。</p> <p>・担当者の指名の有無（有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種： （所属： 薬剤部 ， 職種： 薬剤師 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>インフォームドコンセントに関する責任者が定期的に入院診療録のピアレビューを行い、不十分な場合には適切に実施されるよう研修・指導を行っている。医師による次の7項目のカルテ記載を必要としている。</p>	

1. 対象者（患者またはその代諾者） 2. 説明場所 3. 説明日時 4. 同席者（医療者） 5. 説明内容 6. 説明時の患者またはその代諾者の反応等 7. 患者またはその代諾者に同意を得たこと	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録管理責任者は、定期的に診療録等の記載内容の確認を行い、不十分な場合は、記載方法や内容の研修・指導等を行っている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 所属職員：専従（ 4 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 5 ）名</p> <p>うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 3 ）名</p> <p>うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全に関すること</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）医療安全管理委員会の方針に基づき、同委員会と連携し、院内の医療安全に努める。 （2）インシデント事例収集、分析及び再発防止策を立案する。 （3）インシデント・アクシデント審議会、事例検証会等を開催し、事例の検証、調査及び対策の立案を行う。 （4）医療安全活動の企画、立案を行う。 （5）院内外で収集した医療安全情報の院内周知や医療安全に関する職員教育を行う。 （6）医療者相談・医療紛争及び医療訴訟事例等の検証を行い、対応する。 （7）高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する検討を行う。 （8）医療安全に配慮した各種マニュアルの作成、改訂を行う。 （9）その他、医療安全に関する業務を行う。 <p>医療の質に関すること</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）医療情報から医療の質の評価に役立つ指標を情報分析推進室と協働で分析、評価する。 （2）医療の質において評価が低く、問題となった点の分析、改善策の立案を行う。 （3）臨床倫理に関する事例等の対応支援を行う。 （4）総合的質管理委員会、業務標準化委員会と連携し、医療の質向上に努める。 （5）部門横断的な質改善活動等、院内の医療の質改善活動の支援を行う。 （6）その他、医療の質改善に関する業務を行う。 <p>モニタリングの具体例</p> <p>院内死亡事例、院内急変事例、転倒・転落発生率ならびに損傷発生率、手術・麻酔に関連した予期せぬ出来事 など</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（3件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 病院長の命を受け、新規医療技術等の責任者として業務を掌理する
 - (2) 新規医療技術等の適否等について関係各部署に対し、意見を求める
 - (3) 決定した内容及び規程等の遵守状況を病院長に報告する
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（9件）、及び許可件数（9件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 病院長の命を受け、未承認新規医薬品等を用いた医療の責任者として業務を掌理する。
 - (2) 未承認新規医薬品等を用いた医療提供の適否について関係各部署に対し、意見を求める。
 - (3) 決定した内容及び内規等の遵守状況を病院長に報告する
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 245 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 107 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) 重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな

原因の究明のための調査及び分析

- (2) 分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員等への周知
- (3) 改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直し
- (4) インシデント、アクシデント等の報告(全死亡事例及び一定基準以上の有害事象等の報告)の実施の状況の確認、必要な検証及び確認結果の報告
- (5) 実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導
- (6) その他医療安全管理に関すること

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り ((病院名：防衛医科大学校病院) ・無)

令和4年11月10日立入り(新型コロナウイルス感染拡大の影響で、令和4年度特定機能病院間相互のピアレビューはWeb訪問となった。)

- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ ((病院名：佐賀大学医学部附属病院) ・無)

令和4年10月31日立入り受入れ(新型コロナウイルス感染拡大の影響で、令和4年度特定機能病院間相互のピアレビューはWeb訪問となった。)

- ・技術的助言の実施状況

高難度新規医療技術の実施状況報告を1ヶ月後、3ヶ月後、6ヶ月後に求めていることについて、報告の頻度が適切であるのか今後検討してほしいとの助言を受けたため、2023年度は高難度新規医療技術の範疇を明確化することを目標とし、実施状況報告の頻度について再検討を行っている。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

患者支援センターに入退院支援・総合相談部門を置き、患者相談業務を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

「前年度インシデントの振り返り」(令和4年5月31日 質・安全マネジャー連絡会議)

「MET症例を振り返って」(令和4年8月3日 質・安全マネジャー連絡会議)

「医療安全からみたせん妄・認知症対策」(令和4年9月30日 質・安全マネジャー連絡会議)

「ダブルチェック」「スキンテア」令和4年12月5日 質・安全マネジャー連絡会議)

「質・安全マネジャーの役割」「当院の輸血拒否患者への対応について」(令和5年1月27日 質・安全マネジャー連絡会議)

「医療安全管理マニュアル第17版の改訂ポイント」(令和5年3月29日 質・安全マネジャー連絡会議)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

公益財団法人日本医療機能評価機構が主催する令和4年度特定機能病院管理者研修を受講
管理者（令和5年2月20日受講）、医療安全管理責任者（令和4年12月7日受講）、医薬品安全管理責任者（令和4年11月11日受講）、医療機器安全管理責任者（令和5年1月16日受講）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

●令和3年10月27日から令和3年10月29日にかけて、公益財団法人日本医療機能評価機構（以下、機構）が実施する病院機能評価のうち、一般病院3による評価を受審した。

●令和3年12月24日に機構から中間的な結果報告を受領した。

●令和4年1月25日に機構へC評価項目（6項目）に対する補充的な審査の受審意向登録（申込み）後、令和4年2月4日に改善報告書を提出した。

●令和4年3月3日にC評価項目の内容及び改善報告書に基づき「訪問による審査」の旨が決定され、令和4年4月11日補充的な審査を受審した。

●令和4年6月3日付けで、「認定留保」となった旨、審査結果を受領した。

●令和4年6月28日付けで審査結果報告書を受領し、この日から起算して6ヵ月以内に再審査を受審し、改善要望事項として挙げられた4項目に係る改善の取り組みが評価できる資料を提出することとされている。

●令和4年7月25日付けで、再審査の申込みを行った。

●令和4年11月14日付けで、再審査に係る報告資料の提出を行った。

●令和5年2月24日、再審査を受審した。

●令和5年4月7日付けで、日本医療機能評価機構から「認定」の通知を受領した。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

本院ホームページに専用ページを開設しており、認定証を公開している。なお、日本医療機能評価が作成する「審査結果報告書」が公表され次第、本院ホームページからリンクし、当院の評価結果について公表することとしている（R5年9月11日現在、機構において未作成）。

・評価を踏まえ講じた措置

認定留保の審査結果を受け、「C」評価と判定された事項を重点的に改善に取り組み、病院全体で医療の質の向上に向けた取り組んだ。

1. 職員への情報共有

認定留保の審査結果を受け、病院執行部会議、病院運営審議会、業務連絡会議の病院の主要会議で報告するとともに、毎週月曜日に病院職員向けに配信している病院長月曜朝礼においても病院職員へ情報共有を行った。

2. 改善に向けた取り組み

(1) 令和5年度「病院の目標」の設定

本来の特定機能病院・高度急性期病院としての機能をしっかりと確保していくため、また、病院機能評価をきっかけとした特定機能病院としての機能の更なる充実を目標とし、令和5年度の「病院の目標」を定めた。病院全職員に対し、病院機能の更なる改善、充実に向かって継続的な取り組みを進めるよう、周知を行った。

(2) 職員必修講習の実施

職員向け必修講習として病院機能評価受審において改善要望された項目を含む医療安全に関する講習会を実施した。インシデント防止における薬剤の一施用理の有効性、ハイリスク薬の取扱いなど医療に係る安全管理のための基本的な考え方及び具体的方策について職員に周知徹底を図るため、e-learning による講義を行った。

(3) コアミーティングの実施

病院長をはじめ病院執行部を中心としたメンバー構成で、改善要望事項の課題解決に向けたミーティングを隔週で実施した。各関係部署で改善に向けたロードマップを作成して課題解決に向けて対応を行うとともに、コアミーティングでは、その進捗状況を確認し必要に応じて病院全体で改善に向けて対応を行った。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 病院長は、人格が高潔で、学識に優れ、大学附属病院の運営に関し識見を有し、かつ以下の資質・能力を備えていることが求められる。 (1) 医療法第10条に規定された病院の管理者として要件を満たす医師であること。 (2) 大学附属病院の管理運営に必要な資質・能力を有すること。 (3) 医療安全管理業務の経験並びに医療安全を第一に考える姿勢及び指導力を備え、医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者であること。 (4) 神戸大学医学部附属病院の理念・基本方針を理解し、その実現に向けた強い意思とリーダーシップを有すること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 神戸大学ホームページに掲載
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 神戸大学ホームページに掲載 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
木戸 良明	神戸大学理事(企画 ・ 人事・総務担当)	○	理事のうち学長が指名した者	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無

河端 俊典	神戸大学理事(研究・社会共創・イノベーション担当)		理事のうち学長が指名した者	有・無
南 康博	神戸大学大学院医学研究科長		医学研究科長（役職指定）	有・無
秋末 敏宏	神戸大学大学院保健学研究科長		保健学研究科長（役職指定）	有・無
平田 健一	神戸大学大学院医学研究科循環器内科学分野（医学部附属病院循環器内科）教授・診療科長		医学部附属病院において診療科長を兼務する神戸大学の教員のうちから、学長が指名した者	有・無
置塩 隆	神戸市医師会 顧問		学長が委嘱する学外の有識者 一般社団法人神戸市医師会 顧問として、医学・医療全般について高い識見を有し、神戸市を含めた地域医療における医療政策について助言をいただくため、選定する	有・無
上田 裕一	地方独立行政法人 奈良県立病院機構 理事長		学長が委嘱する学外の有識者 地方独立行政法人奈良県立病院機構 理事長として、病院運営・管理はもとより、医学・医療全般について高い識見を有し、兵庫県外からの見地に立った助言をいただくため、選定する	有・無
鈴木 康之	兵庫県立淡路医療センター院長		学長が委嘱する学外の有識者 兵庫県立淡路医療センター 院長として、病院運営・管理はもとより、医学・医療全般について高い識見を有し、兵庫県外からの見地に立った助言をいただくため、選定する	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 主要人事（病院管理部門の長，診療支援・企画部門の長，診療科長，中央診療部門の長，専門診療施設等の長，薬剤部長，看護部長及び医療技術部長）に関する事項 (2) 病院組織の改編に関する事項 (3) 人事制度，定員の変更に関する事項 (4) 予算の配分及び執行並びに決算に関する事項 (5) その他答申を行うべき事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 <ul style="list-style-type: none"> ホームページ及び業務連絡会議にて報告 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（(有)・無） ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ホームページ ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（有(無)） <ul style="list-style-type: none"> ※内規上は、必要と認められる時に意見を聴取できることとされているが、令和3年度においては聴取していない。 	

合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
眞庭 謙昌	○	大学教員（医師）	病院長
黒田 良祐		大学教員（医師）	国際がん医療・研究センター長
佐々木 良平		大学教員（医師）	副病院長
児玉 裕三		大学教員（医師）	副病院長
溝渕 知司		大学教員（医師）	副病院長
岡田 健次		大学教員（医師）	副病院長
板東 由美		看護師	副病院長
前田 英一		大学教員（医師）	病院長補佐
伊藤 智雄		大学教員（医師）	病院長補佐
掛地 吉弘		大学教員（医師）	病院長補佐
松本 理器		大学教員（医師）	病院長補佐
寺師 浩人		大学教員（医師）	病院長補佐
明石 昌也		大学教員（歯科医師）	病院長補佐
菱本 明豊		大学教員（医師）	病院長補佐
小林 和幸		大学教員（医師）	病院管理部門の長
宮良 高維		大学教員（医師）	病院管理部門の長

真田 昌爾		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
高橋 路子		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
青井 貴之		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
村垣 善浩		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
松岡 広		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
福本 巧		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
坂口 一彦		大学教員（医師）	診療科長
平田 健一		大学教員（医師）	診療科長
三枝 淳		大学教員（医師）	診療科長
小川 涉		大学教員（医師）	診療科長
南 博信		大学教員（医師）	診療科長
岩田 健太郎		大学教員（医師）	診療科長
村上 卓道		大学教員（医師）	診療科長
野津 寛大		大学教員（医師）	診療科長
久保 亮治		大学教員（医師）	診療科長
山口 崇		大学教員（医師）	診療科長
福本 巧		大学教員（医師）	診療科長
國久 智成		大学教員（医師）	診療科長
尾藤 祐子		大学教員（医師）	診療科長
松本 知之		大学教員（医師）	診療科長
篠山 隆司		大学教員（医師）	診療科長
中村 誠		大学教員（医師）	診療科長
丹生 健一		大学教員（医師）	診療科長
中野 雄造		大学教員（医師）	診療科長
寺井 義人		大学教員（医師）	診療科長
小谷 穰治		大学教員（医師）	診療科長
酒井 良忠		大学教員（医師）	診療科長
矢野 嘉彦		大学教員（医師）	中央診療部門の長
大竹 寛雅		大学教員（医師）	専門診療施設等
豊永 高史		大学教員（医師）	専門診療施設等
山口 雅人		大学教員（医師）	専門診療施設等
福沢 公二		大学教員（医師）	専門診療施設等
立原 素子		大学教員（医師）	専門診療施設等
矢野 育子		大学教員（薬剤師）	薬剤部長
丸山 孝樹		理学療法士	医療技術部長
福井 浩司		事務職員	事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
ホームページ
- ・ 規程の主な内容
医学部附属病院規則第3条第2項に「病院長は、病院全般の管理、運営を総括し、所属職員（病院配置教員を含む。）を監督する。」とある。
職員の任免については、病院内の内部規則で定めたもの以外は、学長の任免になるが、その職員の選考（人選）にあたっては、病院長に権限が付与されている。副病院長、病院長補佐については、それぞれの設置要項により病院長の指名となる。
主要人事（病院管理部門の長、診療支援・企画部門の長、診療科長、中央診療部門の長、専門診療施設等の長、薬剤部長、看護部長及び医療技術部長）及び予算の配分等の重要事項については、医学部附属病院規則第3条第3項、執行部内規第3条及び運営審議会内規第4条により、病院長及び副病院長等により組織される執行部等において決定される。
以上のことから、病院長に一定の人事・予算執行権限が付与されていることを明確化している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 神戸大学医学部附属病院副院長設置要項を定めており、副院長は、病院長の職務を分担し、病院長不在の際はその職務を代行することとなっている。
 - ・ 神戸大学医学部附属病院病院長補佐設置要項を定めており、病院長補佐は、病院の管理運営等に関する個別の具体的事項について企画立案を行い、病院長に提言することとなっている。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ・ 人事について
病院内の内部規則で定めたもの以外は、学長の任免になるが、その職員の選考（人選）にあたっては、病院長に権限が付与されている。副院長、病院長補佐については、それぞれの設置要項により病院長の指名となる。
また、主要人事（病院管理部門の長、診療支援・企画部門の長、診療科長、中央診療部門の長、専門診療施設等の長、薬剤部長、看護部長及び医療技術部長）については、医学部附属病院規則第3条第3項、執行部内規第3条及び運営審議会内規第4条により、病院長及び副院長等により組織される執行部等において決定される。
 - ・ 研修について
公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2022年度特定機能病院管理者研修」を病院のマネジメントを担う者（管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者）に受講させ、その育成を行っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>下記業務について、病院長に対し報告を求め、必要に応じて実地監査を行う</p> <p>(1) 医療安全管理に係る体制</p> <p>(2) 医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務の状況</p> <p>(3) 医療の質・安全管理部の業務の状況</p> <p>(4) 医療に係る安全管理のための委員会等の業務の状況</p> <p>(5) その他医療安全管理に関して必要な事項</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法：ホームページ</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
寺尾 秀一	加古川中央市民病院 副院長/臨床研究・ 治験センター長/診 療部長/内科主任科 部長/医療安全管理 部長/医療安全推進 室長	○	医療に係る安全管理又 は法律に関する識見を 有する者その他の学識 経験を有する者	有・(無)	1
丸山 英二	京都府立医科大学大 学院医学研究科 客 員教授 (非常勤)		医療に係る安全管理又 は法律に関する識見を 有する者その他の学識 経験を有する者	有・(無)	1
武田 高	関西住宅品質保証株 式会社監査役 (非常 勤)		医療を受ける者その他 の医療従事者以外の者	有・(無)	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制については、国立大学法人神戸大学内部監査規程（平成16年4月1日制定）に定める内部監査その他の本学において実施する各種監査により整備されている。
病院運営管理では、法令諸規則に準拠した運用がされているかについて監査を行い、医療安全管理では、外部監査の意見、相互レビューの助言について対応措置が講じられているかについて監査を行う。
なお、管理者は、内部統制システム（e-learning）研修を受講し、病院における内部統制システム実施状況を定期的に学長に報告している。
学長は、報告の結果必要と認めるときは、内部統制委員会の議を経て改善を管理者に命ずる。
管理者は、改善内容及び結果について学長に報告する。
- ・ 専門部署の設置の有無（有・無）
- ・ 内部規程の整備の有無（有・無）
- ・ 内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
ホームページ

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 開設者（学長）による特定機能病院（医学部附属病院）の業務の監督に係る体制については、病院業務監督会議において、病院の運営方針、中期計画、予算及び決算その他の附属病院の管理運営に関する重要事項について監督されており、確保されている。 ・ 会議体の実施状況（ 年1回 ） ※対面会議のほか、四半期ごとの経営状況に関するメール報告あり ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年1回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・ 公表の方法 ホームページ 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：病院業務監督会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
木戸 良明	神戸大学	○	<input checked="" type="radio"/> 有・無
眞庭 謙昌	神戸大学医学部附属病院		<input checked="" type="radio"/> 有・無
上田 裕一	奈良県立病院機構		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
木下 芳一	兵庫県立はりま姫路総合医療センター		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
森 悦朗	大阪大学大学院連合小児発達学研究科		有・ <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 ホームページ、医療スタッフポケットマニュアルに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>方法：病院ホームページに掲載</p> <p>内容：各種治療実績・成績、医療機能情報提供、先進的な医療について など</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>呼吸器センター(呼吸器内科、呼吸器外科等)、腫瘍センター (腫瘍・血液内科、緩和 支持治療科等)、I C Uにて複数の診療科が連携し対応。</p>	